

文部科学省委託「道徳教育改善・充実」総合対策事業研究指定校(平成 28 年度)

東広島市立志和中学校 公開研究会

研究主題

自他を認め 自尊感情を高める道徳教育の創造

～生徒の心に響く指導方法の工夫をとおして～

研究紀要



平成 28 年 11 月 10 日 (木)

東広島市立志和中学校



はじめに

本日は、東広島市内の小中学校をはじめ、市内外、県外から多数の先生方、地域の皆様にご参加をいただき、公開研究会が盛大に開催できますことに、心から感謝申し上げます。

本校は、今年度、文部科学省委託「道徳教育改善・充実」総合対策事業の研究指定をいただき、研究主題に、「自他を認め 自尊感情を高める道徳教育の創造～生徒の心に響く指導方法の工夫をとおして～」を掲げ、研究を進めてきました。

道徳の時間につきましては、読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導、発達段階などを十分に踏まえず、児童生徒に望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業等の課題が提起されています。

そこで本校は、平成31年度に「特別の教科 道徳」（道徳科）が全面実施となり、「考え、議論する」道徳科への転換により、児童生徒の道徳性を育むことが求められていることから、指導法の工夫改善の一つに、「ローテーション授業」を導入し、協働的な学び合いの場を意図的に仕組み、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的实践意欲と態度等の道徳的实践力を高めるよう鋭意努力しています。

本日は、その取組の一端を公開し、これまでの研究のまとめを報告させていただきます。皆様から忌憚のないご指導とご助言をお願いいたします。

終わりにになりましたが、本校の研究推進にご指導いただきました、香川大学大学院教育学研究科准教授 植田和也先生、愛媛県西条市立河北中学校 坂井親治校長先生をはじめ、きめ細かな指導をいただきました広島県教育委員会、広島県西部教育事務所、東広島市教育委員会の諸先生方に心より感謝とお礼を申し上げます、挨拶とさせていただきます。

平成28年11月10日

東広島市立志和中学校
校長 森岡 勝司

1 研究主題設定の理由

(1) 生徒の実態

本校は、学校目標「夢と志をもち 果敢に挑戦し 自己実現する生徒の育成」を掲げ、和文化的の本物体験活動を柱に、教育活動が行われている。道徳教育の推進においては、平成 22 年度から「伝統と文化を尊重し、郷土を愛する子どもの育成」をめざし、地域教材の開発や地域貢献活動等、様々な取組を行ってきた。その結果として、「ふるさと志和」を誇りとし、郷土を愛する子どもの育成が図られている。

本校の昨年度の道徳性に関わる意識調査としては、「自分には、よいところがありますか」(74.4)、「自分のよさは周りの人から認められていると思いますか」(68.6)という質問項目について、肯定的評価の平均値が、県平均を 5.4～8.7 ポイント程度上回っている。しかし、今年度の一年生は「自分には、よいところがありますか」(54.0)、「自分のよさは周りの人から認められていると思いますか」(34.0)と自己肯定感がきわめて低い。また、昨年度の「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」(39.4)の結果は、県平均を 8.0 ポイント下回っており、道徳的実践力に関して課題があると捉えている。

(2) 研究主題

『自他を認め、自尊感情を高める道徳教育の創造』
～生徒の心に響く指導方法の工夫をとおして～

(3) 研究仮説

小グループでの学び合い活動を効果的に取り入れた授業づくりを行えば、自他の考えをより深く共有し合うことができ、生徒の自尊感情を高め、集団や社会の一員としての自覚と責任を育むことができるだろう。

(4) 研究内容

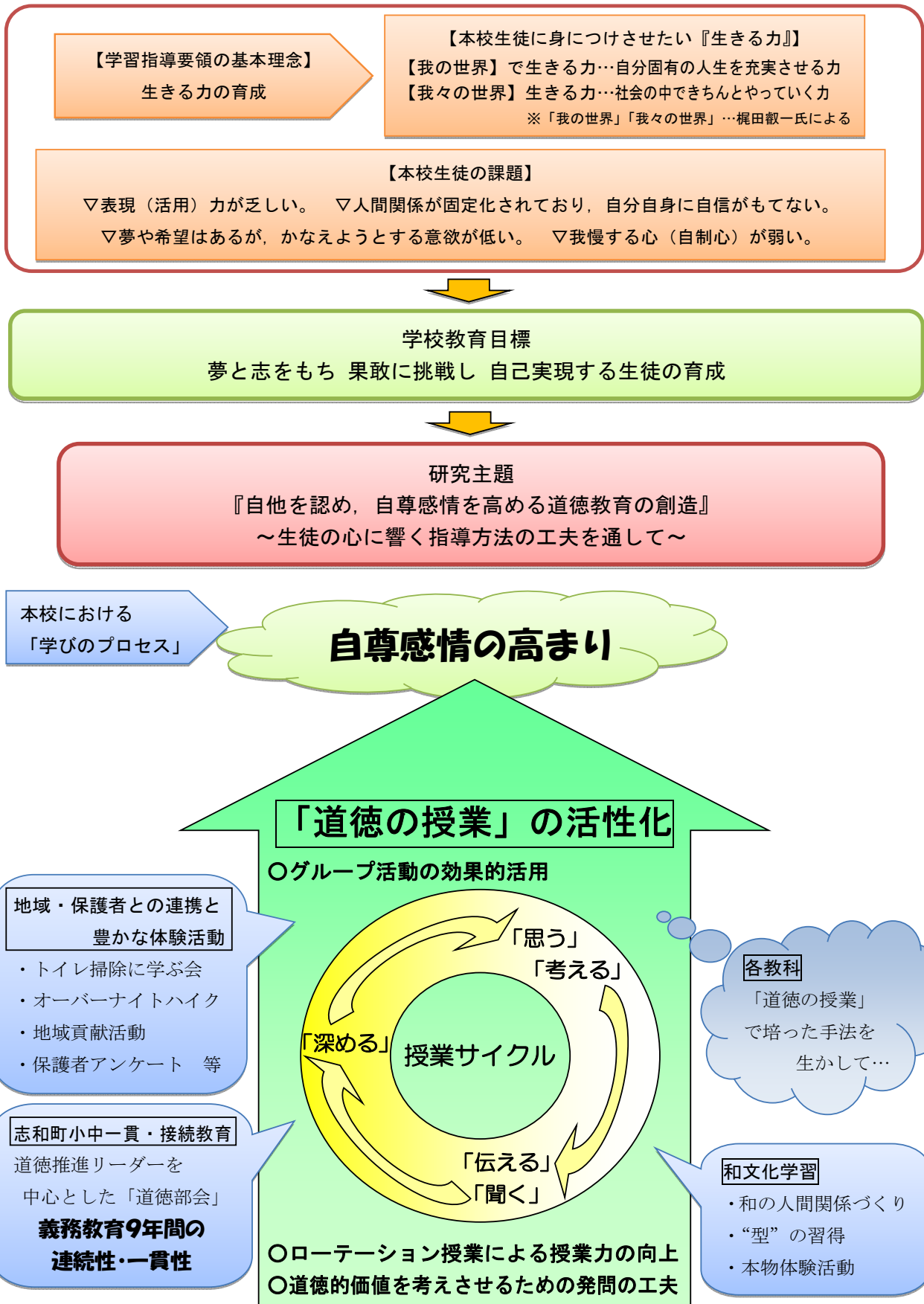
- i 生徒の心に響く道徳教育の推進
 - ・ローテーション道徳の実践による指導方法の工夫と授業力の向上
 - ・小グループ活動を取り入れることによる「考え、議論する」場面の充実
- ii 小学校との連携を生かした道徳教育の推進
 - ・義務教育 9 年間を見通した重点項目の設定と実践
- iii 家庭や地域と連携して進める道徳教育の推進
 - ・道徳の時間との関連を図るための体験的活動や家庭、地域への情報発信

(5) 検証の視点と検証方法

検証の視点	評価			達成目標値
	方法	指標	対象	
「道徳の時間」の授業力向上	アンケート	「道徳の時間」の勉強は好きだ。	教職員	75%
	アンケート	「道徳の時間」が充実していると思う。	生徒	75%
「道徳の時間」における小グループ活動の充実	アンケート	「道徳の時間」では友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている。	生徒	85%
	アンケート	「道徳の時間」では友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりする指導の工夫をしている。	教職員	85%
	行動観察	生徒の振り返りの記述に人の考えを聞いて自分の考えと比較したり深めたりした内容の発言がみられる。	生徒	
生徒の自己肯定感の高まり	アンケート	自分にはよいところがある。	生徒	1 学年：65% 2・3 学年：80%
生徒の周囲から認められているという自己効力感の高まり	アンケート	自分のよさが周りに認められていると思う。	生徒	1 学年：50% 2・3 学年：75%
生徒の集団や社会の一員としての自覚と責任の高まり	アンケート	みんなで協力しあってよりよい学級や学校をつくらうとしている。	生徒	90%
	アンケート	いじめを見たり聞いたりした時、いじめをやめさせようとすることができる。	生徒	85%
小学校との連携	授業公開	学区内の小学校教職員に道徳の授業研を公開・参加してもらう。	学区内小学校教職員	各校 1 名以上
	系統表の作成	共通の重点項目についての小中の系統表を作成する。	学区内小学校教職員	「思いやり」について作成
家庭や地域との連携	授業公開	家庭や地域に道徳の授業を年 1 回以上公開する。	教職員	100%
	授業実施	地域教材を年 2 回以上使用する。	教職員	100%
	参加人数調査	志和おやじ会主催の地域行事に参加しているか。	生徒	対象学年の80%
	生徒記述	地域の行事などに参加した生徒の作文から、地域への思いや地域の一員としての自覚等についての記述があるか。	生徒	

(6) 研究構想図

平成28年度 志和中学校 研究構想図



2 生徒の心に響く道徳教育の推進 ～「道徳の授業」の活性化に向けての具体的内容～

(1) ローテーション道徳の実践による指導方法の工夫と授業力の向上

i 「ローテーション道徳」を実施する理由

中学校学習指導要領解説 「特別の教科 道徳編」

第3節 指導の配慮事項

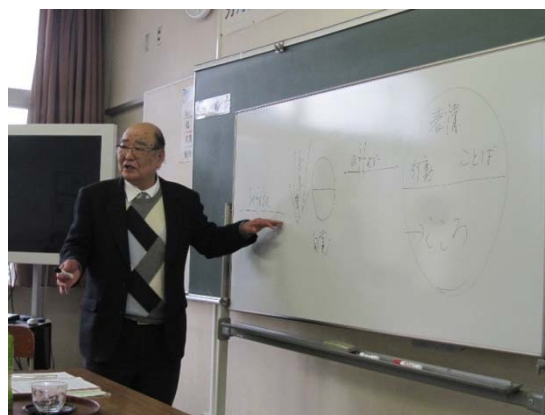
1 道徳教育推進教師を中心とした指導体制

(「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2)

(1) 学級担任の教師が行うこと原則とするが、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。

本校では、道徳教育推進教師が中心となり道徳に関する全体計画や年間指導計画を立案し、学級担任による「道徳の授業」を実施してきた。しかし、「道徳の授業」における指導の工夫については、なかなか道徳教育推進教師のリーダー性を発揮できる場がなかった。また、校内での授業研究では「道徳の授業」を実践する教職員もいなかったため、「道徳の授業」について校内体制として、互いに学び合う機会がなかった。そのため、教職員の中には、国語の授業のように登場人物の心情の読み取りに終わってしまったり、資料は扱っているものの、まるで特別活動の内容になってしまったりと、「道徳の授業」そのものの具体的イメージを持ち得ていなかった。

そこで、「特別の教科 道徳」が平成31年度より全面実施となることから、平成28年度からの3年間でどのように教職員の道徳の授業への力量を高めていくか、日本道徳教育学会名誉会長（元文部科学省 教科調査官）横山利弘先生を招聘し、校内研修会を実施し、「ローテーション道徳授業」について研修を深めた。



横山先生のお話の概要

「道徳の授業」の授業力が向上しない最大の原因は、用いた資料での授業経験が圧倒的に少ないからである。普段、各教科においては、多くの場合、一つの授業、一つの単元教材を複数の学級で授業しているはずだ。同じ内容の授業であっても、指導者は前のクラスで感じた反省や課題に対して改善を試みながら授業実践しているはずである。だから各教科の授業力は高まっていくのだ。しかし、「道徳の授業」はどうだろうか。担任教師が授業で感じた反省や課題をすぐに生かすことはなかなか難しい。同じ資料を用いて授業を実施する機会は、多くの場合、早くて次年度である。入学から卒業までの三年間を持ち上がった教職員は3年間、同じ資料を用いることはないであろう。3年間にたった1回しか授業をしていないのに、上手に資料を扱うことは困難である。何度も授業を繰り返すから、授業力は向上するのだ。そのために「ローテーション道徳」で授業力を向上する取組がある。日々の授業準備や部活動、生徒指導で多忙を極めている教職員が、週1回、年間35時間の「道徳の授業」のために、どれほどの教材研究、準備をする時間があるだろうか。「ローテーション道徳」は、扱う資料の数は少なくなるが、じっくりと時間をかけて授業準備をすることが可能になる。1つでも自信を持って扱う資料ができてくると、自然と他の資料の扱い方も分かるようになってくる。そうやって自分自身の持ちネタと言えるような資料を増やしていけばいいのだ。

この研修を受け、本校では、「道徳の授業」に対する授業力を向上することが先決だと考え、平成28年度は「ローテーション道徳」で「道徳の授業」を実施することにした。

ii 「ローテーション道徳」のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
生徒について	①様々な指導者の授業を受けることで、いろいろな価値観に触れることができる。 ②毎回の授業が新鮮になり、楽しみになる。 ③その結果、積極的に授業に取り組み、思考を深めることができる。 → 道徳性の高まり	①指導者が毎週変わることによって、自分の思いや考えを伝えることを不安に思う。
指導者について	①教科の特性や得意分野を生かした授業の工夫ができる。 ②教材研究にかかる時間が増え、自信をもって授業に臨むことができる。 ③見出された反省や課題をすぐに次の授業に生かすことができる。 ④複数の授業者による多角的な生徒理解ができる。 ⑤他教員の授業の参観がしやすい。 → 指導力の向上	①個々によって、担当しない内容項目が生じる。 ②配慮を要する生徒に対する関わり方が難しい。 ③年間を通した生徒の変容の把握について、担任と綿密な連携が必要である。

デメリットをメリットに変えるために

- ・教職員どうして、積極的に生徒の様子を話す機会を持つ。
- ・他の教職員が実施している「道徳の授業」を参観する。

教職員間のコミュニケーションの活性化

iii 「ローテーション道徳」の実際



第1期は、道徳推進教諭 (T2) とペアを組む指導者 (T1) が1週間で全クラスを授業した。第1期は道徳推進教諭が主となって、道徳の授業の指導案を立案、修正をしていった。

メリット	生徒のワークシートの記述や、班の話し合いの記録を振り返りながら、道徳の授業について密に語り合い、考えることができる。
デメリット	T1は担当教科の授業準備もあるため、指導案の修正はT2に頼ってしまうことが多い。




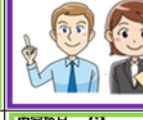






















第1期のデメリットの改善を図るため、第2期は6週をかけてローテーションしていく授業システムにした。第2期は、T1教師が主となって、指導案の立案、修正をしていくこととした。

メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・T1の道徳の授業力が向上する。 ・学級実態により即した授業の改善を図ることができる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・T2は週に6本の指導案の確認と、T1との連携が必要となるため、多忙となる。 ・実施時期に最大6週間のズレが生じるため、他の教育活動との関連に調整が必要となる。

〔ローテーション道徳：第1期〕

第1週	月	火	水	木	金
1校時		1-1 道徳 内容項目 自主自律(A1) 教材名 「〇〇〇」 	2-1 道徳 内容項目 自主自律(A1) 教材名 「〇〇〇」 	3-1 道徳 内容項目 自主自律(A1) 教材名 「〇〇〇」 	
		1-2 道徳 内容項目 自主自律(A1) 教材名 「〇〇〇」 	2-2 道徳 内容項目 自主自律(A1) 教材名 「〇〇〇」 	3-2 道徳 内容項目 自主自律(A1) 教材名 「〇〇〇」 	
2校時					
3校時					
4校時					
5校時					
6校時					

〔ローテーション道徳：第2期〕

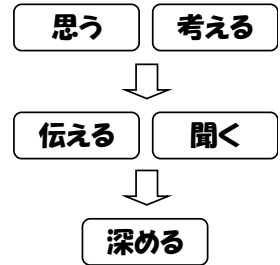
	1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2
1週目	内容項目 A2 教材名「●●●」 	内容項目 A3 教材名「◇◇◇」 	内容項目 B1 教材名「△△△」 	内容項目 B2 教材名「▲▲▲」 	内容項目 C1 教材名「◆◆◆」 	内容項目 C3 教材名「◎◎◎」 
2週目	内容項目 C3 教材名「◎◎◎」 	内容項目 A2 教材名「●●●」 	内容項目 A3 教材名「◇◇◇」 	内容項目 B1 教材名「△△△」 	内容項目 B2 教材名「▲▲▲」 	内容項目 C1 教材名「◆◆◆」 
3週目	内容項目 C1 教材名「◆◆◆」 	内容項目 C3 教材名「◎◎◎」 	内容項目 A2 教材名「●●●」 	内容項目 A3 教材名「◇◇◇」 	内容項目 B1 教材名「△△△」 	内容項目 B2 教材名「▲▲▲」 
4週目	内容項目 B2 教材名「▲▲▲」 	内容項目 C1 教材名「◆◆◆」 	内容項目 C3 教材名「◎◎◎」 	内容項目 A2 教材名「●●●」 	内容項目 A3 教材名「◇◇◇」 	内容項目 B1 教材名「△△△」 
5週目	内容項目 B1 教材名「△△△」 	内容項目 B2 教材名「▲▲▲」 	内容項目 C1 教材名「◆◆◆」 	内容項目 C3 教材名「◎◎◎」 	内容項目 A2 教材名「●●●」 	内容項目 A3 教材名「◇◇◇」 
6週目	内容項目 A3 教材名「◇◇◇」 	内容項目 B1 教材名「△△△」 	内容項目 B2 教材名「▲▲▲」 	内容項目 C1 教材名「◆◆◆」 	内容項目 C3 教材名「◎◎◎」 	内容項目 A2 教材名「●●●」 

(2) 小グループ活動を取り入れることによる「考え、議論する」場面の充実

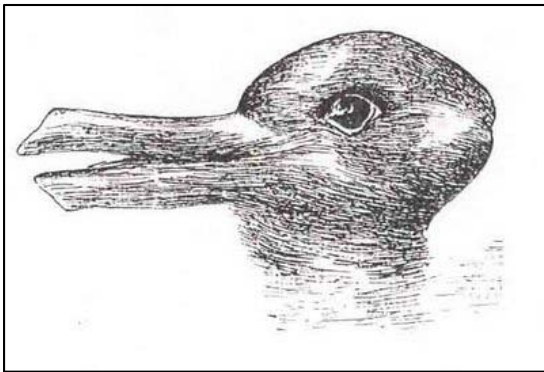
i 小グループ活動を取り入れる理由

今年度は、全クラス、最初の道徳の授業では、「だまし絵」を用いて、「期待する道徳の授業のあり方」について説明をすることから始めた。

一枚の絵であっても、いろいろなものの見方ができる。どのような見方をしても間違いではなく、どれも正しい。なぜそのような見方をしたのか、みんなは自然と理由を考えている。みんなの「思い」や、そう「考えた」理由を、グループやクラスの中で「伝えて」ほしい。そして、「伝える」ためには、同時に「聞く」人の姿勢も問われる。一生懸命に「伝えた」ことを、しっかりと「聞いて」、さらにもう一度、自分の「思い」や「考え」を「深めて」ほしい。そんな道徳の授業にしていきたい・・・



(志和中研究通信「和奏&志和ごころん」第1号より)



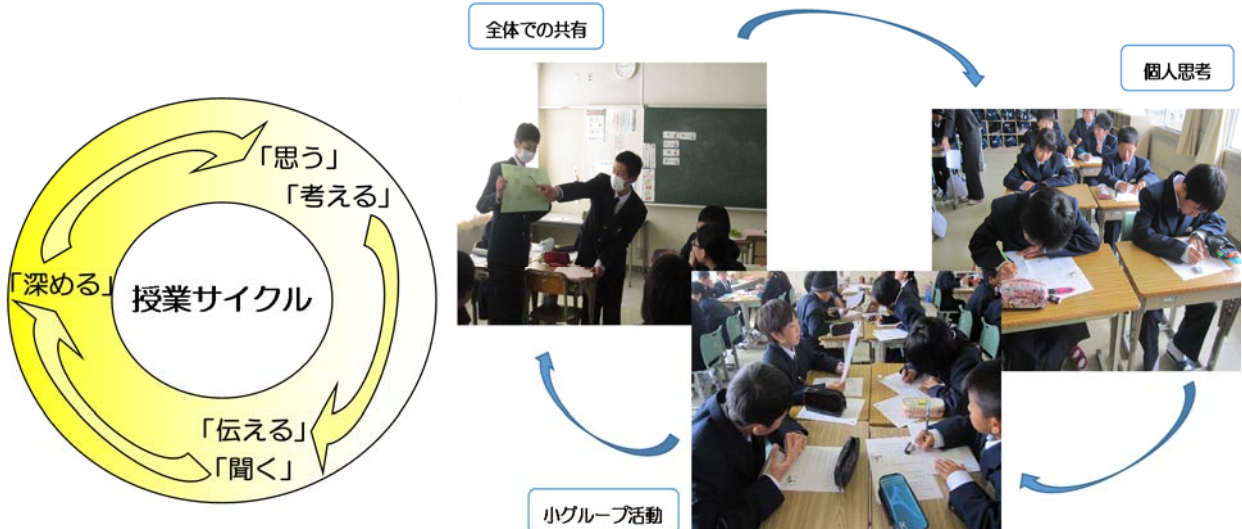
「ウサギとアヒル」



「娘と老婆」

ii 小グループ活動の実際

小グループ活動を取り入れる際には、「思う」「考える」→「伝える」「聞く」→「深める」の授業サイクルを確立するために、個人思考→小グループ活動→全体での共有という流れを基本とする。また、1グループ4人を原則としている。4人それぞれには役割を与え、円滑に協働的な学び合い活動が行えるようにしている。



iii 「考え、議論する」場面の充実

①限られた時間での小グループ活動を充実させるために

- ・小グループ活動のルールづくり

本校の小グループ活動では生徒一人一人に司会係、記録係といった役割を与えている。それぞれの役割の生徒が円滑に活動できるように、手順を記したシートを持たせていた。しかし、手順を示すだけでは話し合いを深めることは難しい。意見を述べる者に対し、聞き手をいかに育てるかが大切なのではないかとということで、聞き方のポイントを併せて記した「NEW・班の話し合いの手順」を作成し、活用している。



NEW・班の話し合いの手順

司会

- 1 「〇番について自分の考えを言ってください。」
- 2 「〇〇くん(さん)から順番に言ってください。」
- 3 「なぜそのように思うのか言ってください。」
- 4 「でた意見でわからない点はありませんか。」

聞く人

- ・相づち 「なるほど!」「〇〇を詳しく言ってください」
- ・「〇〇のところが一緒です」、「〇〇は私とはちがう意見です」
- ・「わかりました」 等の相手に伝わる反応を意識してみよう

記録

- 1 左上に班の数字を書く
- 2 黒板に貼るので一番後ろの人に読める大きさに書く
- (3 キーワードとなる語句に下線をひく)
- (4 黒板に貼る(指示された場合))

発表

- 1 班を言ってシートの説明をする
- 2 「理由は〇〇です。」(「もし、〇〇でなかったら◇◇…」という言い方もあります。)

- ・カラーコピー用紙の活用

小グループ活動は主に話し合い活動である。「道徳の授業」における小グループ活動時間は最大10分が限界である。その10分間に個人で考えたことをグループ内で比較したり、つないだり、まとめたりといった多くの活動をする必要がある。そのため、より真剣に話し合い活動をさせるために、本校ではホワイトボードではなく、カラーコピー用紙を基本として活用している。ホワイトボードのように書き直しができないという緊張感の中、生徒は小グループ活動に取り組んでいる。



②全体での共有場面の充実

- ・ロールプレイでの役割演技

生徒が能動的に活動できる。演じる本人と、それを見る周囲、両者の気づきを深めることができる。



・ K J 法

小グループ活動で出された意見や考えを整理・分類し、さらに深める。



③道徳的価値を考えさせるための発問の工夫

・ 中心発問の工夫

今年度は、全学年でのローテーション道徳ということもあり、全学年共通の年間指導計画を作成している。そのため、それぞれの学年の発達段階を踏まえた上で中心発問を考えている。

〈実際の指導例〉

『『努力することの大切さ』を知識の上では理解している中学生に、『努力することの道徳的価値』をいかにして考えさせるか』ということに配慮し、中心発問を次のようにした。

授業実践前

主題名 強い意志 A(4)

本時のねらい 夢にむかって金次郎がどのような思いで努力を重ねていたのかを考えることを通して、くじけそうな重いやあきらめたくなる気持ちを乗り越えてより高い目標にむかって努力を重ねることの大切さを考え実践しようとする意欲を育てる。

資料名 「小さな努力の積みかさね—二宮金次郎—」
(出典：「私たちの道徳」小学一・二年生 文部科学省)

中心発問

- 1年生：「努力がつながっていく“大きなこと”とは何か」
→生活場面から具体的に考えさせる。
- 2年生：「努力が大切なのはなぜか」
→努力の価値を抽象的にとらえさせる。
- 3年生：「報われなくても努力を続けなくてはならないのはなぜか」
→努力の価値を本質的にとらえさせる。

授業の経過

4月19日(水) 1年生2クラス
4月20日(木) 3年生2クラス

中心発問そのものが、生活場面や経験と重なり合うことで、より思考に深まりが出てくる！

そのため、2年生における中心発問は
「報われなくても努力を続けるのはなぜでしょうか」と修正。

〈修正授業でのワークシートと小グループ活動で作成した発表資料〉

報われないかもしれないのに人が努力を続けるのはなぜでしょうか。

1 自分の考えを書きましょう。

報われないかもしれないけれど
報われるかもしれないから努力を続ける。

2 班で話し合ってみましょう。

- * 「話し合いの手順」の紙を参考に意見を出し合ってみよう。
- * キーワードを線の紙に大きく書き出して、関係あるものを線で結んでみよう。

3 クラスのみんなの考えを聞いて感じた事や考えたことを文章にしてみましょう。

夏のコンクールの時、みんなが努力しただけで、
"銀賞"だった。けれどそのおかげで、次の目標も
見つけられたし、ニガテや努力するとこそ見つけたので
努力して負けて、次の目標を見つけることができたので
その意見が心に残った。

1 自分の考えを書きましょう。

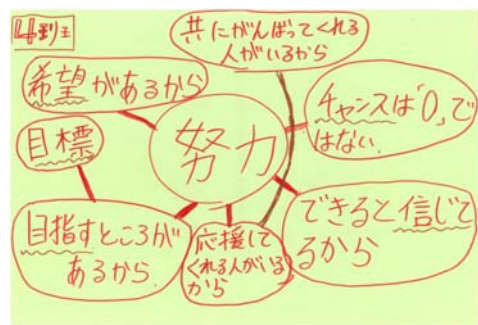
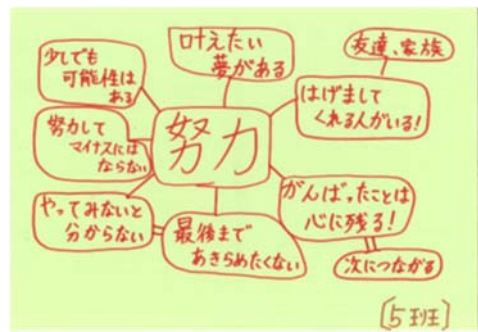
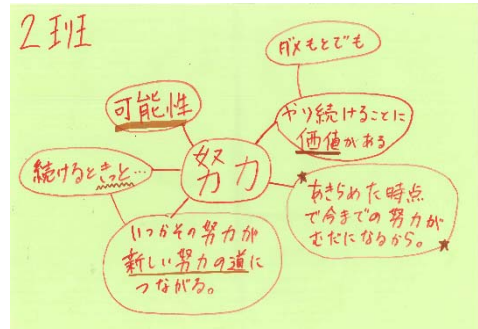
報われないかもしれないけれど、小さな時から大人は成長しているから、
その努力が報われるかもしれないから。

2 班で話し合ってみましょう。

- * 「話し合いの手順」の紙を参考に意見を出し合ってみよう。
- * キーワードを線の紙に大きく書き出して、関係あるものを線で結んでみよう。

3 クラスのみんなの考えを聞いて感じた事や考えたことを文章にしてみましょう。

4班の「がんばれるのは、ともにがんばる仲間がいるから」という
のが、いいと思いました。私は、卓球で元々、さんさんと
がんばるけれど、それと、ともにがんばる仲間がいるか
らこそ、がんばることができると思っています。



④その他の工夫

中心発問を工夫したことにより、導入や小グループでの話し合い活動等にも工夫が見られるようになった。

・導入の工夫



・資料提示の工夫



・ペア活動



・小グループ活動：ディベート



・ネームプレートの活用



・心情円盤の活用



・ICTの活用



・板書の工夫



3 小学校との連携を生かした道徳教育の推進

(1) 義務教育9年間を見通した重点項目の設定と実践

志和町小中一貫・接続教育連絡協議会では今年度より部会を再編し、新たに「道徳部会」を立ち上げた。本部会での研究テーマは「9年間を見通した道徳教育の在り方」である。そこで、志和中学校区としての小中9年間を見通した重点項目を「思いやり」「生命尊重」とした。

また、小学校、中学校それぞれの授業を交流することにより、児童生徒の発達段階や授業の工夫等を協議することとしている。今年度は2回の授業交流を予定しており、第1回目として中学校での授業を公開した。



日 時	授業について		参加状況
6月30日(木)	学年 授業者 主題名・内容項目 資料名	3学年 湯尻 めぐみ・池田 恵子 勤労・C13 「真の味ひとつ」 (出典：「明日を生きる 広島県版 東京書籍」)	志和中：5名 志和西小：2名 志和東小：2名 志和堀小：1名 計 10名

思いやり	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中学校
志和西小	(6月)はしの上のおおかみ (11月)ぼくのはなさいたけど (2月)よかったね、さっちゃん	(5月)くまんのたからもの (11月)学びゆうえんのさつまいも (3月)かっぱ わくわく	(6月)ドミノのように (9月)ぼくら、手つだいまず! (1月)穴べえいとちよ	(4月)やさしいなみだ (11月)なにかおてつだいでできることはありますか? (1月)親切な方へ	(5月)「オトちゃんルール」は「あたりまえ」のルール (1月)くずれ落ちたダンボール箱	(9月)車いすでの経験から (3月)最後のおくり物	(7月)軽いやさしさ (9月)種の上のおおかみ
志和堀小	(6月)はしの上のおおかみ (12月)よかったね、さっちゃん (1月)ぼくのはなさいたけど	(10月)われたぎゆうにゆうびん (2月)学びゆうえんのさつまいも	(4月)フィンガーボール (11月)不思議なぼくの気持ち (1月)親切な方へ		(9月)車いすでの経験から (3月)最後のおくり物		
志和東小	(6月)はしの上のおおかみ (12月)よかったね、さっちゃん (1月)ぼくのはなさいたけど	(5月)くまんのたからもの (3月)かっぱ わくわく	(6月)ドミノのように (9月)心と心のあく手	(4月)やさしいなみだ (11月)何かお手伝いできることはありますか? (1月)親切な方へ	(12月)くずれ落ちたダンボール箱 (2月)最後のおくり物	(9月)車いすでの経験から (3月)心に通じた「どうぞ」のひとこと	

生命尊重	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中学校
志和西小	(6月)どきどき どっきんぐ (2月)いのちがあってよかった	(6月)たんじょう日 (12月)ゆきひょうのライオン (2月)ぼく	(6月)ヌテヌグスージ (9月)健ちゃんをたすけろ (2月)いたいたいいのち	(7月)わたしの見つけた小さな幸せ (12月)ヒキガエルとロバ (3月)バルバオの木	(6月)命がないと始まらない (10月)コースチャぼうやを救え (2月)この水のために	(4月)命の重さはみな同じ (11月)お母さんへの手紙 (1月)東京大空襲の中で	(9月)ハゲワシと少女 (3月)地球に生きるグレートジャーニーの子どもたち
志和堀小	(6月)どきどき どっきんぐ (10月)ハムスターのあかちゃん (1月)いのちがあってよかった	(4月)たんじょう日 (6月)ぼく (11月)ゆきひょうのライオン	(7月)わたしの見つけた小さな幸せ (11月)バルバオの木 (3月)走れ江ノ電光の中へ		(4月)よみがえれ、海よ (5月)その思いを受けついで (11月)東京大空襲の中で		
志和東小	(6月)どきどき どっきんぐ (10月)ハムスターのあかちゃん (2月)いのちがあってよかった	(12月)たんじょう日 (2月)ぼく (3月)空色の自転車	(6月)ヒキガエルとロバ (9月)健ちゃんをたすけろ (2月)いたいたいいのち	(7月)わたしの見つけた小さな幸せ (12月)バルバオの木 (3月)走れ江ノ電光の中へ	(6月)命がないと始まらない (11月)コースチャぼうやを救え (2月)この水のために	(4月)妹の手紙 (12月)その思いを受けついで (1月)東京大空襲の中で	

4 家庭や地域と連携して進める道徳教育の推進

(1) 道徳の時間との関連を図るための体験的活動

i 和文化学習

本校は数年来、和文化学習を基盤に研究を進めてきている。

①和の人間関係づくり

・「志和しぐさ」

和文化学習の一環として本校では「江戸しぐさ」について学習してきました。
「江戸しぐさ」とは、江戸時代の人々が行っていた、思いやり行動のことです。
この行動により、人間関係をうまく営み、トラブルを避けたり互いを思いやっていた
そうです。この「江戸しぐさ」によって、人々がお互いに気持ちよく生活することがで
きていたと考えられています。
「しぐさ」は「仕草」ではなく「思草」と書きます。「思」はものの見方や考え方を示
し、「草」はそれにもとづく行動を示しています。人と人のかかわりの中で、少し相手
を思いやって言葉を考えたり、少し周りの人に気を配って行動したりすることで、お互
いが嫌な気持ちになることが少なくなると考えています。
各学級では、「江戸しぐさ」を参考に、自分たちの中学校生活をよりよくするため、生
活に取り入れていきたい行動について検討しました。各学級で出てきたアイデアを、生
徒会を中心に検討し、今年度、8つの「志和しぐさ」としてまとめました。この「志和し
ぐさ」を生活の中に取り入れ、志和中学校を誰もが気持ちよく生活できる日本一の学校
にしていきたいと考えています。

(平成 25 年度 「志和しぐさ」より)

志和しぐさ

1. 笑顔あいさつ(挨拶返し)
2. 授業切り替え 3 秒しぐさ
3. スリッパ直しぐさ
4. 思いやり会話(声かけ待ち)
5. うかつあやまり
6. 立ち止まりあいさつ
7. 横断小走り
8. ふた声あいさつ



生徒会執行部による「立ち止まりあいさつ」劇

志和しぐさ

☆うかつあやまり☆



人とぶつかったり、トラブルになりそうになった時
に、相手に責任を押し付けるのではなく、相手の立
場に立ってお互いに「ごめんね」と謝る思草です。お
互いの立場に立つことによって、けんかにならずど
の場が和みます。

- ・ピア健康観察

仲間同士で健康観察を行うことにより、自分と友達の心と身体を意識する。



② “型” の習得

- ・立腰と瞑目：学習規律の徹底

立腰の仕方



立腰

立腰の仕方

一 足のつま先を、膝かかとより少し外側に置く。
 二 おしり、うんともすもも、へそ、くちびれを一直線に揃え、おしりを、くちびれより少し後ろに、くちびれより少し下に置く。
 三 へそ、くちびれ、おしりを、くちびれより少し後ろに、くちびれより少し下に置く。
 四 おしりを、くちびれより少し後ろに、くちびれより少し下に置く。
 五 おしりを、くちびれより少し後ろに、くちびれより少し下に置く。
 六 おしりを、くちびれより少し後ろに、くちびれより少し下に置く。

腰骨をシャンと立てる（釜木 秀雄 より）
 下はらに が を 入れて
 腰骨を シャンと立ててごらん。
 かたや おねに 力を入れないで、
 あごを ひきましよう。
 いすに かけるときは、
 おしりを ぐっとうしろにひいて かけましよう。
 すばらしいしせいです。
 けんこうな体のもつです。
 あたまのはたらきが よくなります。
 あなたのわがままに、勝てるしせいです。
 あなたじしんを、見なおせるしせいです。
 きびしい世の中を、のりきるしせいです。

瞑目の仕方

- ① 調身(ちょうしん)
 - ◎立腰の姿勢（深く腰掛け、背筋を伸ばし、手はヒザの上、軽く胸を張りあごを引く）
 ※天に向かって頭をつり上げられているイメージで！！
- ② 調息(ちょうそく)
 - ◎腹式呼吸（3秒で鼻から吸い、2秒止め、10秒かけてゆっくり口から吐く）
 - ◎丹田を意識（へそ下3寸【約9cm】に力を入れそこへ意識を集中していく）
- ③ 調心(ちょうしん)
 - ◎自然を感じる（小鳥のさえずり、虫の声、風、太陽、まわりの人の息づかいなどを五感で感じる）

- ・杖道：精神の修養（集中力や精神力、礼法）と身体の鍛錬（巧緻性、バランス性）



③本物体験活動

1 学年：浴衣着付け体験（5月）



2 学年：上田宗箇流茶道体験（2月～3月頃）



3 学年：花柳流日本舞踊体験（9月）



全学年：芸術鑑賞（平成 27 年度 秋風亭てい朝さんによる落語鑑賞）



（H28 年度は喜多流能楽鑑賞。1 月実施）

ミニ俳句甲子園



書初大会・百人一首大会



ii その他の体験活動

①地域貢献活動（全学年：特別活動）



② JICA訪問（3学年：総合的な学習の時間）



iii 志和おやじ会との連携

① トイレ掃除に学ぶ会（2学年：志和おやじ会行事）



② オーバーナイトハイク（3学年：志和おやじ会行事）



(2) 家庭、地域への情報発信

i 家庭、地域への情報発信

① 校長通信「和ごころ」

和ごころ 第4号 H28.5.25
東広島市立志和中学校
校長 森岡 勝司
TEL433-2019 FAX433-2089

校訓「健康 友愛 協力 勤労」
教育目標「夢と志を持ち 果敢に挑戦し 自己実現する生徒の育成」

道徳の時間はTT授業で行われています！豊かな心を育みます！

早いもので5月も下旬を迎え、先日は東広島市陸上大会、東広島市県選手権予選大会がそれぞれ開催されました。3年生にとっては毎回の大会が中学校最後の大会であることから、悔いを残さないよう練習に汗を流していました。私も全校朝会で「普段の練習が練習のための練習では力にはつかない。練習の時に自分を追い込み、自分の限界を知ることが大切である」と話しました。

4月に紹介した相田みつをさんの詩を思い出して下さい。


「毎日毎日の足跡が
おのづから
人生の答えを出す
きれいな足跡には
きれいな水がたまる」

日々の練習の積み重ねが、おのづと答え（結果）を出します。野球部は県選手権予選大会の1回戦で向陽中と対戦し2対2で見事勝利しましたが、2回戦の本木松中に5対0で敗れ、呉賀茂地区大会への残り1校の枠をかけた中央中と対戦。1回裏に1点先制点をあげたものの惜敗しました。生徒も悔しい思いをしていましたが、日頃の練習を見直す機会にもなりました。

今週木曜日から、1年生にとって初めての前期中間試験が行われます。この試験も、毎日毎日の授業への取組、家庭学習（復習）の足跡（積み重ね）が答えを出すわけです。そこで大切なことは、今、目の前の課題、つまり勉強で「ようわからんところ」があるとしたらどうしますか？わからないままにしておくのはもったいないです。ぜひ職員室でも、廊下でも、教室でも先生をつかまえて質問することです。理解できるまで聞くことです。あなたは、どのような足跡（努力）を残そうとしていますか？困難から逃げずに頑張ってください。

さて、今年度は文部科学省の委託事業である、「道徳教育改善・充実」総合対策事業の研究指定を受け、研究主題に「自他を認め、自尊感情を高める道徳教育の創造」を掲げ、道徳教育の充実を図っています。従来は担任が行っていた道徳授業を全教員が行うこととしました。つまり、道徳教育推進リーダーの池田先生と担当の先生との2名の先生（TT）により道徳授業を行っています。担任以外の教員も道徳授業を行うため、全学年統一した教材を6クラスで行うため、教師にとっても指導力の向上が期待されます。このやり方をローテーション授業といいますが、生徒にとっては、毎回の道徳の時間が色々な先生が担当するため、新鮮味(?)があるようです。部活顧問の先生が担当すると、その部活に所属の生徒が発表を頑張ったりと、生徒の違った一面もうかがえます。ご家庭でも道徳の授業の感想などを聞くなどして話題になればと思います。

【自信を持って！ 失敗を糧に！ めざせ誇れる自命！】



和ごころ 第6号 H28.7.6
東広島市立志和中学校
校長 森岡 勝司
TEL433-2019 FAX433-2089

校訓「健康 友愛 協力 勤労」
教育目標「夢と志を持ち 果敢に挑戦し 自己実現する生徒の育成」

校長講話「自律とは何かを考える-自分で線を引ける人？」

7月を迎えました。7月は文月（ふづき、ふみづき）と呼ばれ、その由来は7月7日の七夕に詩歌を献じたり、書物を夜風にさらす風習があるからというのが定説のようです。今年も早いもので半年が過ぎ、いよいよ折り返しとなりました。

先月の17日には、ハワイのコナワイナ中学校から7名の生徒と2名の教員を迎え、交流会を行いました。コナワイナの生徒からはハワイの自然や食べ物を紹介し、遊びを通じての異文化体験とブラダグスの披露、本校生徒からは全校生徒による校歌斉唱、3年生による合唱を披露し、志和中生徒会により学校紹介を英語で行いました。その後は、3年教室で書写や事の和文体験、給食や掃除を共に行い、充実したひとときを過ごしました。真心こもる見送りに、コナワイナの生徒は大喜びだったようです。なお、この模様はNHKテレビや中国新聞朝刊、カモンケーブルで紹介されています。

さて、今日の全校朝会では、私から「自律」について話しました。内容の要旨をまとめた次の通りです。

「6月の生活重点目標は、“時間を意識して行動”でした。学級委員会でも授業開始1分前には着席しようと呼びかけ、取組を開始しました。大半の生徒の皆さんは、注意されことなく時間を意識して行動できています。しかし、あるクラスでは何度呼びかけても着席しないと思われ女子生徒の姿がありました。注意されないとかなかなか自分で線が引けない生徒もいるわけです。そういう生徒に足りないのは何か。それは「自分で線を引く」ということができない生徒です。ここではない。ここからはアウトという自分で線引きができないわけです。だから、誰か他の人にガンと言われたいとは思ってはいないけど、他の人に線を引いてもらっている姿です。社会生活には線は引かれていないけど、はみ出しはいけない線があります。「授業中は私語をしてはいけない」「レストランでは騒がない」とか。幼い子は親に叱られて、だんだん自分では線が引けないということを学んでいるわけだから仕方ないわけですが、皆さんは中学生です。自分の行動については、「自分で線を引ける」のが中学生であり、これを自律というわけです。自律した行動を心がけましょう。」

本校は、文部科学省の委託事業である「道徳教育改善・充実」総合対策事業の研究指定を受け、道徳教育の充実を力注いでいます。なかでも「ローテーション授業」を取り入れています。これは、通常は担任が道徳授業を行うところですが、各先生方で教材を割り当て、全学年（各2クラス×3）6クラスで同一教材を活用して、道徳教育推進教師である池田教諭とのTT授業を行う実践方法です。平成31年度から道徳の時間が「特別な教科 道徳」（「道徳科」）として実施することから、本校としても、生徒1人1人によりよく生きるための道徳性を養うため、家庭との連携を図り、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てていきたいと思っています。

【自信を持って！ 失敗を糧に！ めざせ誇れる自命！】



和ごころ 第7号 H28.7.20
東広島市立志和中学校
校長 森岡 勝司
TEL433-2019 FAX433-2089

校訓「健康 友愛 協力 勤労」
教育目標「夢と志を持ち 果敢に挑戦し 自己実現する生徒の育成」

「私たちの道徳」を活用して親子で対話の夏休みに！

先週の15日には、クラスマッチとして「ドッジボール」を行い、学年を越えて賑やかに盛り上がった行事になりました。体育館に歓声が響き渡りました。

競技種目を決定するにあたっては、生徒会執行部が各学級から希望種目を募りました。執行部には男女が仲良く、協力が求められる種目にとの思いがあったようです。通常のドッジボールだと当たると痛い、男女が力合わせてとはなりにくいことから、円盤状のやわらかい素材（フリスビーのようなもの）を同時に2つ使用して、ドッジボールの形態で戦いました。運動能力に全く左右されないため、意外性もあり楽しめる競技でした。普段の授業では見られない(?)素敵な表情がいくつも見受けられました。

早いものでいよいよ明日から夏休みに入ります。梅雨明けとなり、本格的な真夏の到来です。こまめな水分補給に努め、熱中症対策に充分留意し、健康で無事故、そして親孝行の夏休みにと期待しています。本校舎の耐震工事に伴い、グラウンドには2階建てのプレハブ校舎が完成しました。冷暖房完備なので、この夏は午前には部活動に汗を流し、午後からは涼しい教室で学習に挑戦してもらいたいと思います。保護者の皆様にはお子さんに弁当を持参させていただければと思っております。

さて、保護者の皆様には通知をさせていただいているわけですが、あらためてお願いしたいと思います。といえますのは、本校は文科省の委託事業であります。道徳教育「改善・充実」総合対策事業の研究指定を受け、生徒に豊かな心を育んでおります。そこでこの夏休みには、お子さんに「私たちの道徳」という本を自宅に持ち帰らせ、親子で読み合う機会を持っていただければと思います。この「私たちの道徳」は心の教育の充実をめざし、一昨年に無料で配付されたもので、道徳の時間等の全ての学校教育で使用すること、道徳的価値や規範意識について自ら考え、実際に行動できるようになること、家庭教育としても活用する等とされています。生徒には、夏休みの課題として出していますが、どの頁でもかまいません。手にとって読まれた感想、お子さんと語り合ったこと、あるいはお子さんへのメッセージ等を配付したアンケートにご記入いただき、8月29日に「私たちの道徳」とともに学校へ提出いただければと思います。提出していただきましたコメントにつきましては、校内に匿名で紹介させていただき、生徒への応援メッセージとして掲示を考えております。また、広島県教育委員会の甲にも紹介させていただきたいと考えております。ご協力の程、宜しくお願いいたします。

「各分野の第一線で活躍する人たちが
同じように苦い経験や挫折を味わいながら それを乗り越えてきた。
彼等に泳ぐ白鳥は、水面下で懸命に水をかいているのだ。」
—私たちの道徳から—

【自信を持って！ 失敗を糧に！ めざせ誇れる自命！】



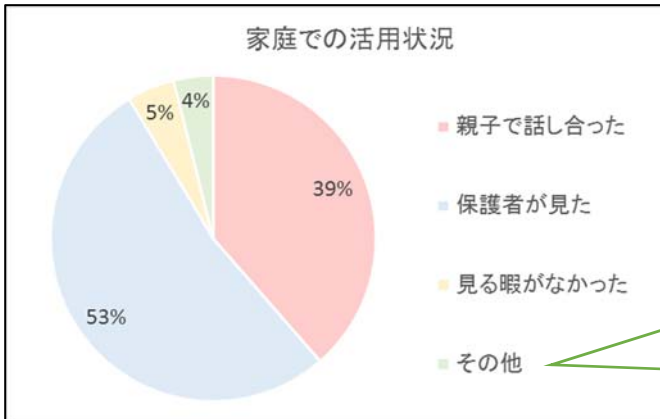
授業実践した内容項目についての講話（全校朝会）や研究推進に関する内容を、保護者や地域等にも発信している。



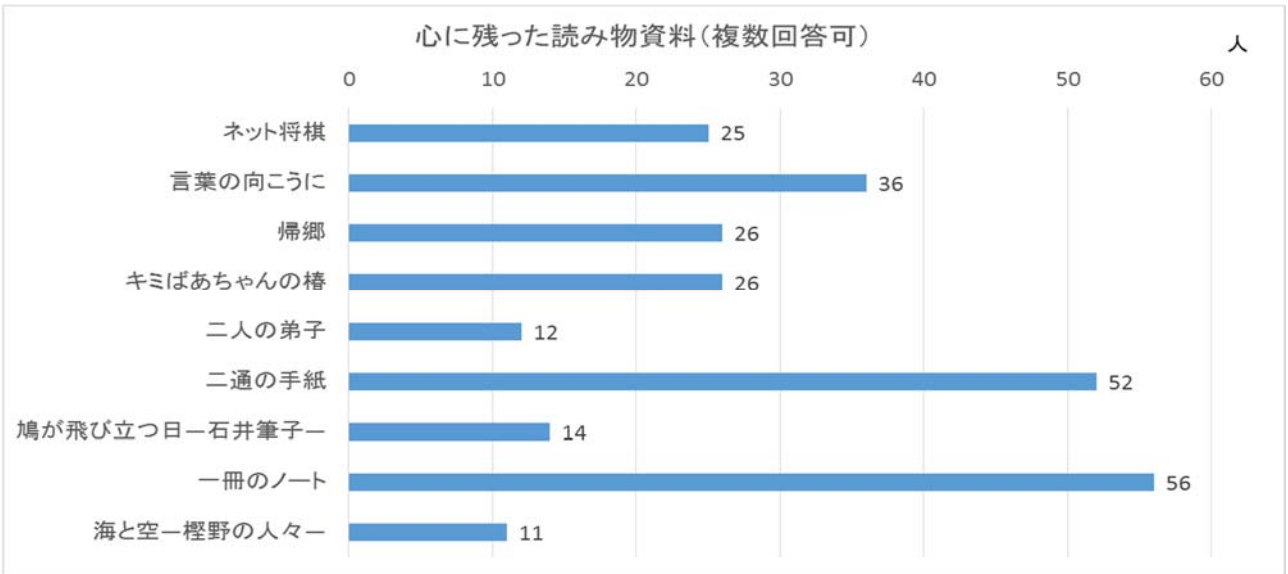
全校朝会での講話の様子

②「私たちの道徳」の保護者閲覧

保護者数145名，アンケート回答数127名，回答率87.6%



【その他の理由】
 ・家では私のみ読みましたが，道徳の授業の話の日頃から子どもに聞いていたので，なるほどと思いながら読みました。



【理由】

ネット将棋	自分の負けを「素直に認める」ということは本当に難しいことだと思う。しかし，それを受け入れられた時には，自分を見つめ直せている。反省ができる。そこから伸びる時であり，成長していく。とても共感できました。
言葉の向こうに	ネット社会を象徴している。ネット上の文字だけのコミュニケーションでは，自分の考えや思いが伝わらない部分があるので，言葉，態度，しぐさなど，面と向かってコミュニケーションをとることが大切なんだと再確認した。
帰郷	日頃の忙しさで，つい忘れがちな人の「優しさ」に気付かされました。あたたかい話でした。
キミばあちゃんの椿	日々言い訳ばかりで，できない理由を正当化している自分が恥ずかしくなりました。今から何かにチャレンジするのはなかなか難しいですが，身近にある小さなことからチャレンジして，日々，輝きながら生きていこうと思います。
二人の弟子	生きてきたこと自体が修行になっていた道信と，そんな道信を受け入れることのできない智行。道信を弟子とすることで，道信にとっては救いになり，智行にとっては修行になる。上人の懐の深さと弟子二人の真摯な姿はいいなあと思いました。

二通の手紙	ルールはルールとしないと、いざという時にとっても大変なことになる。これくらいと思う気持ちはあるが、良い方にいけばいいが、そればかりでもない。きまりを守ることは自分を守り、人を守り、命を守るのだと思う。
鳩が飛び立つ日―石井筆子―	人は誰でも、誰かに支えられ、誰かを支えている・・・、そういう存在であることを痛感しました。私も、縁あって知り合うことのできた人や家族のために何かできる存在でありたいと思います。
一冊のノート	私自身にも一緒に暮らしていた祖母がおりました。しっかり者で孫にとっても優しくしてくれた祖母でしたが、だんだんと認知症の症状が現れ始め、そんな祖母のことを全て受け入れてあげられるようになるまでには、私も家族も色々な心の葛藤がありました。どんなに忘れてしまっても大好きな祖母。家族で支えていた日々を思い出しました。今、息子達にも祖父や祖母が近くにいます。息子達にも祖母や祖父の変化を受け入れ、支えてあげられる子に育ててほしいと思いました。
海と空―檜野の人々―	その時救助に当たった檜野の人々も、救助されたトルコの人々も、もういないのに、こんなことができるのも人間ならではですね！ 私も檜野の人々みたいに何も考えることなく、困っている人を見たら、助けてあげられる人になりたいです。

○参考になった「この人に学ぶ」・「この人の一言」は・・・

Column message この人に学ぶ			
鎌田 實	10名	振分精彦（元小結高見盛）	4名
松井 秀喜	7名	大木 聖子	4名
ガンディー	7名	アンネ・フランク	4名
山中 伸弥	6名		

Saying この人のひと言		
スピノザ	8名	自分にはできないと思う大抵の出来事は、できないのではなく、本当はやりたくないだけなのだ。
マザー・テレサ	7名	優しい言葉は、短くて簡単なものであっても、ずっとずっと心にこだまする。
シュヴァイツァー	6名	感謝を言葉や態度で表すことを後延ばしにすることのないように自分を訓練しなさい。
アウレリウス	4名	目標なくして人は何事もなしえない。
サン＝テグジュペリ	3名	心で見なければ本当のことは見えない。
曾野 綾子	3名	人生において何が正しいかなんて誰にもわからないのだから、自分の思うとおりに進んで、その結果を他人の責任にしないことが大切ではないかと思う。
アインシュタイン	3名	大切なのは疑問を持ち続けること。
河合 隼雄	3名	「自分はだめじゃないか」という気持ちをもっていないと、進歩がありません。

他にも・・・

「確かに手紙は読んだ。趣旨はともかく、同じことをくどくど繰り返して、愚痴や恨み言ばかり並べて見苦しい。君の行くべき道はただ一つしかなく迷いようがないではないか。君の得意な分野で生きていくことだ。教師では食えないと言うが、それはまだ真剣に教えていないからだ。私の見るところでは、まだ工夫が足りない。不健康を理由に、だらだらした生活を送るならば、父母への最大の不幸だ。迷うことなく、ただ一筋に教師の道を歩むべきである。」（「キミばあちゃんの椿」より倉重の言葉）
を書かれた保護者が2名いた。

5 校内研修体制

(1) 「広島版『学びの変革』アクションプラン」を意識して

平成31年度より「特別の教科 道徳（仮称）」が実施されるにあたり、本校教職員が苦手と感じている「道徳の授業」の授業改善を目指して、全校での校内研修体制を構築した。



教職員の課題

- ・よりよい「道徳の授業」の具体的なイメージがない。

課題解決に向けて

- ・ローテーション道徳の導入による授業力向上

→ 年間指導計画の作成

→ 教職員一人一人が得意分野や苦手と感じている内容項目を選択することで、前向きに授業に取り組む。



授業参観

- ・他の教職員の授業を参観することで、よりよい「道徳の授業」の具体的なイメージを構築していく。



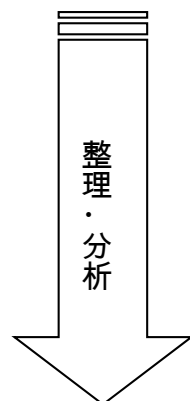
先進校の視察等

- 6月14日 香川県高松市立香東中学校
- 6月16日 愛媛県西条市立河北中学校
坂井親治 校長先生 招聘



坂井親治校長先生の示範授業（1学年対象）

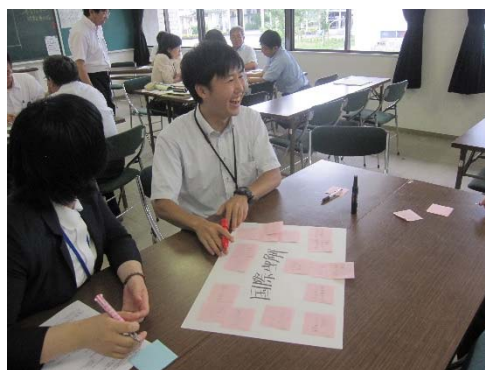
- 8月3日 第25回国小・中学校道徳教育 研究大会（愛媛大会）第2回事前研修会への参加

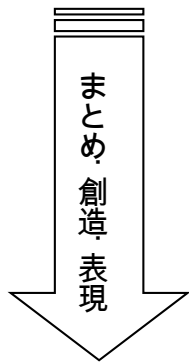


授業研究後の研究協議の充実

ローテーション道徳の振り返り

- ・全教職員がローテーション道徳を実施したところでの課題（P.5 参照）を分析し、第2期ローテーション道徳へ移行。



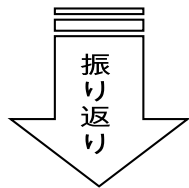


研究主題に基づいた指導案の作成

- ・第2期ローテーション道徳は、T1指導者が指導案を作成する。
- 道徳推進教師（T2）は、指導案作成の指導、助言。



第2期ローテーション道徳の開始



第2期ローテーション道徳の振り返り

来年度に向けて

研修経過

月 日	研修形態	研修内容	指導助言者
平成 27 年度 2 月 3 日	理論研修	「道徳の授業」の授業力向上に向けて	日本道徳教育学会名誉会長 横山利弘 先生
平成 28 年度 4 月 4 日	理論研修	今年度の研究内容の確認	
5 月 31 日	授業研究	自他を認め、自尊感情を高める道徳教育の創造	広島県教育委員会 山田幸治 課長補佐 広島県教育委員会 金子京子 指導主事
6 月 2 日	授業研究	自他を認め、自尊感情を高める道徳教育の創造	香川大学大学院 植田和也 准教授 東広島市教育委員会 村上正志 参事
6 月 16 日	示範授業	内容項目：2-(2) 人間愛・思いやり 「なんでとめんのよ」(自作資料)	愛媛県西条市立河北中学校 坂井親治 校長
	理論研修	道徳科における推進体制の確立への取組	
6 月 30 日	授業研究	小中9ヶ年を見通した道徳教育の在り方	
7 月 4 日	授業研究	自他を認め、自尊感情を高める道徳教育の創造	広島県教育委員会 金子京子 指導主事 西部教育事務所 神崎隆之 指導主事
7 月 12 日	授業研究	自他を認め、自尊感情を高める道徳教育の創造	香川大学大学院 植田和也 准教授 東広島市教育委員会 田川至孝 指導主事
	理論研修	ローテーション道徳の効果的な活用について	
7 月 27 日	校内研修	第2期ローテーション道徳について	
8 月 9 日	校内研修	視察研修報告・これからの取組について	
8 月 25 日	校内研修	模擬授業及び研究協議、指導案検討	香川大学大学院 植田和也 准教授
10 月 20 日	授業研究	道徳の時間における問題解決的な学習の工夫	國學院大學 田沼茂紀 教授 広島県教育委員会 金子京子 指導主事 広島県教育委員会 大橋美代子 指導主事

[先進校視察等]

6 月 1 4 日 香川県高松市立香東中学校

8 月 3 日 第25回四国小・中学校道徳教育研究大会（愛媛大会）第2回事前研修会

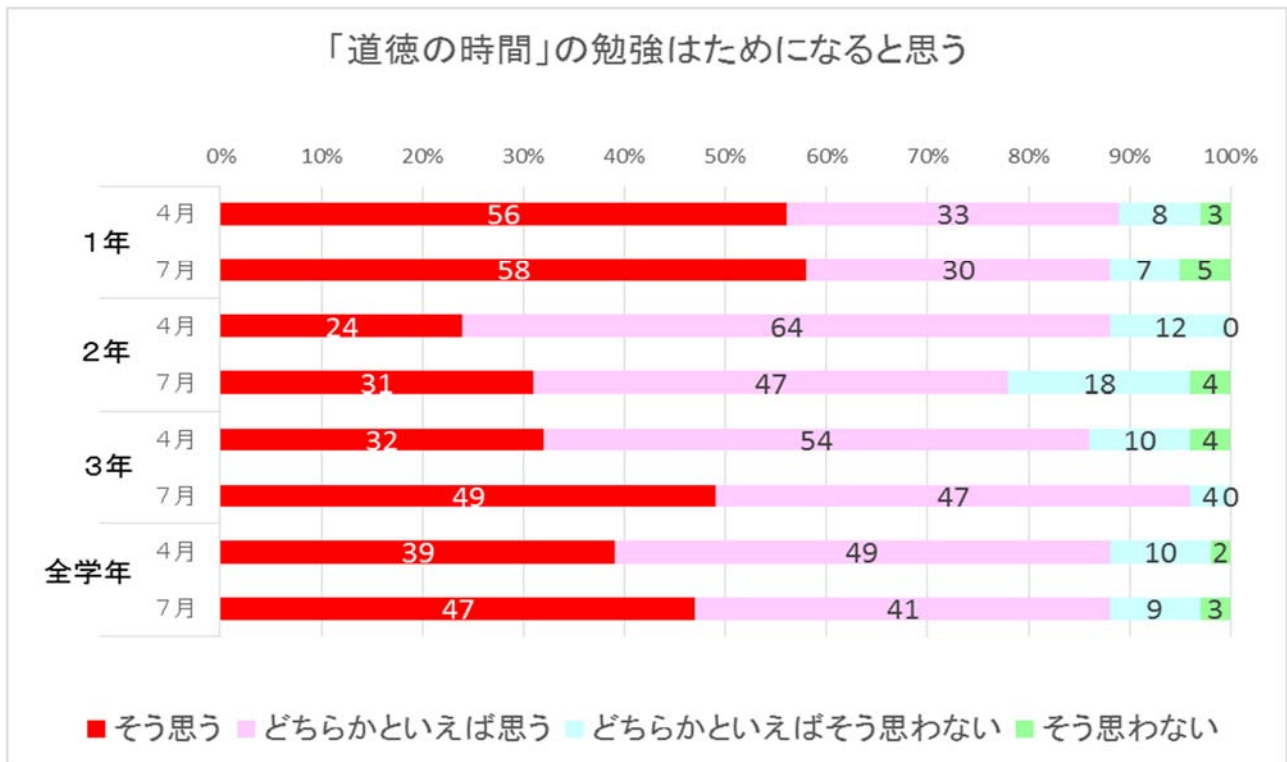
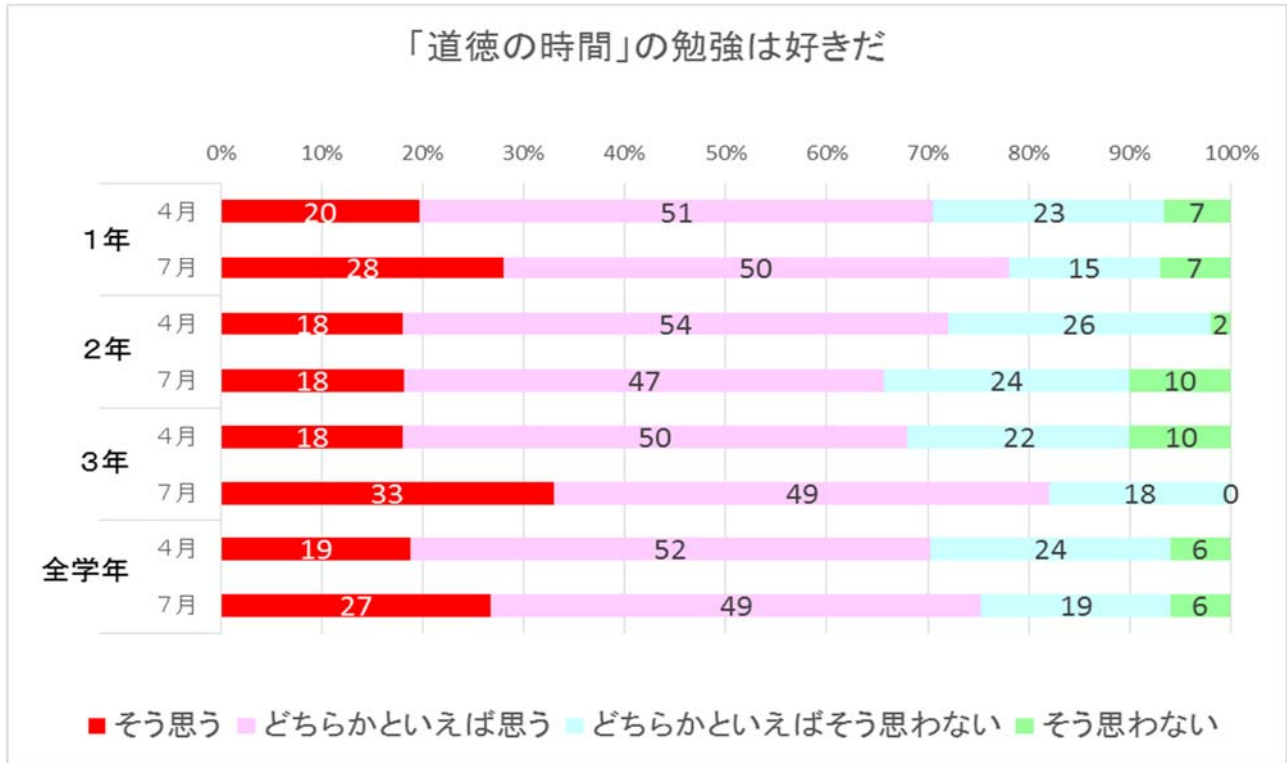
6 検証

(1) 生徒の意識調査より

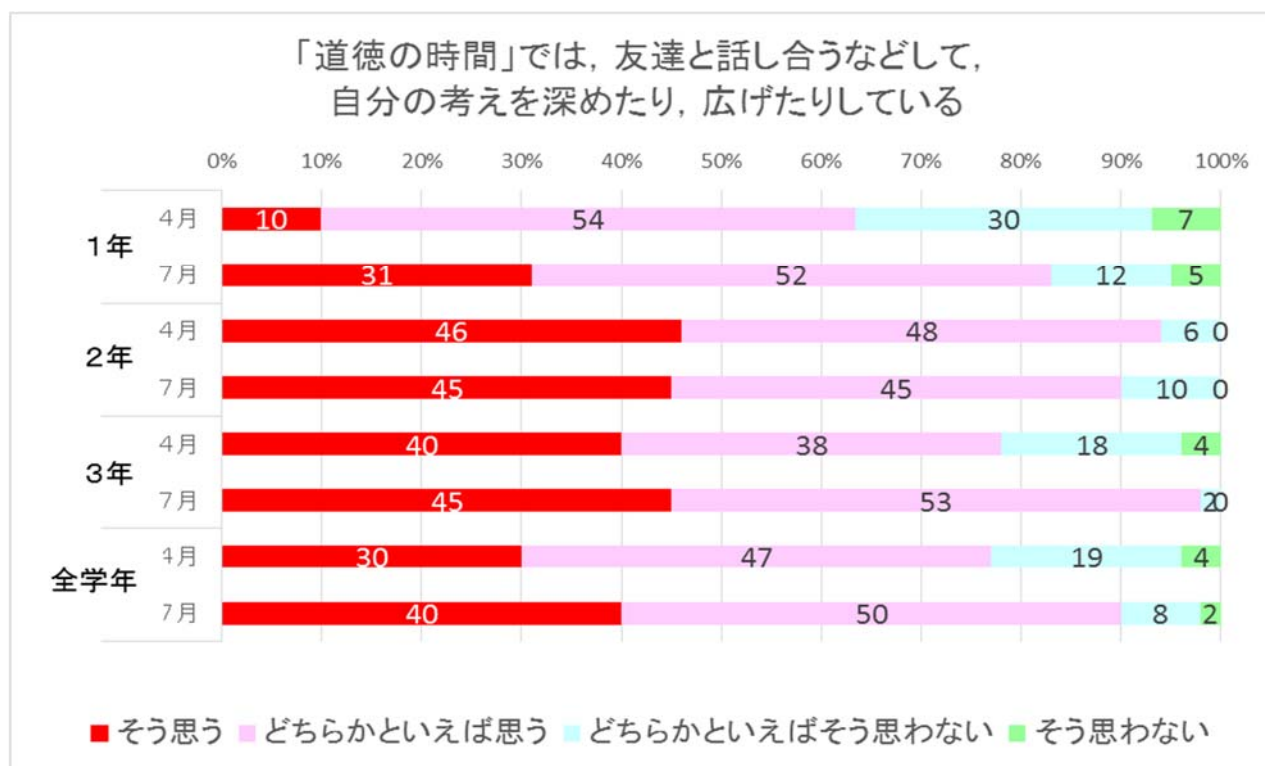
i 【検証の視点】「道徳の時間」の授業力向上

【検証方法】アンケート

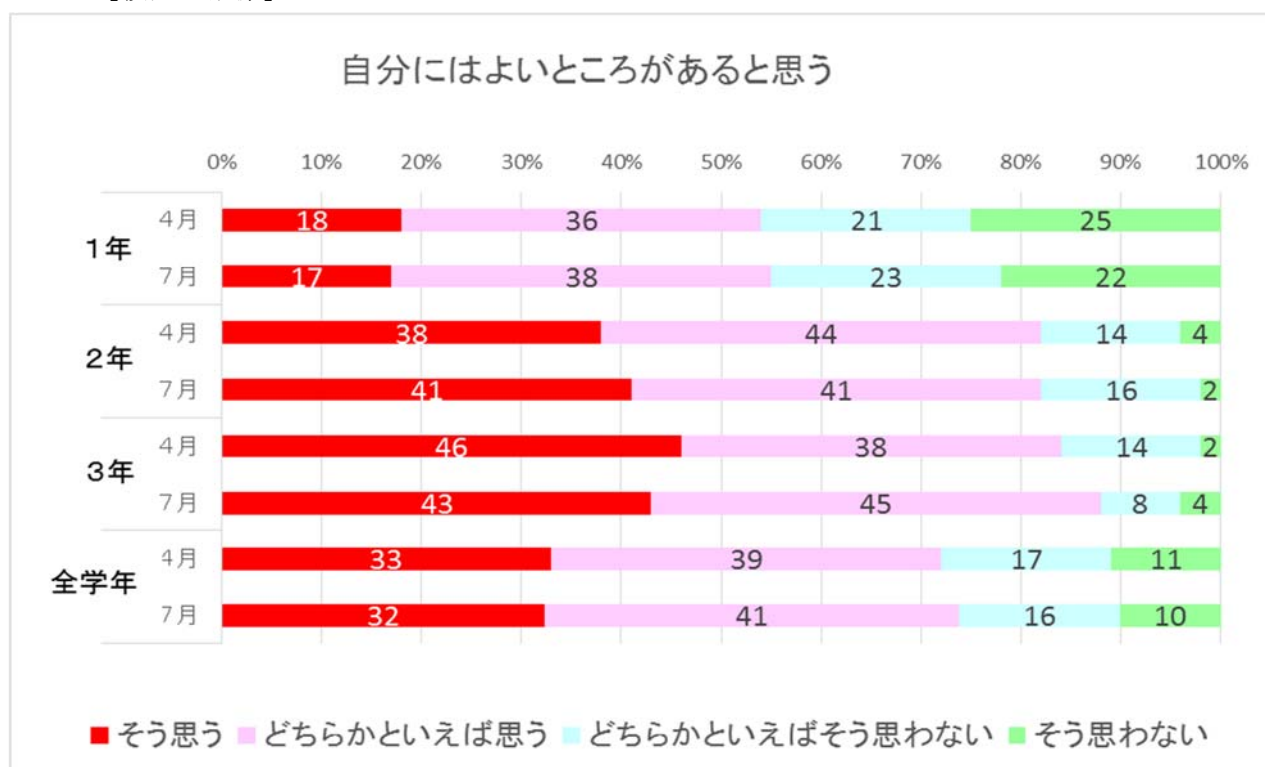
【検証の指標】



- ii 【検証の視点】「道德の時間」における小グループ活動の充実
- 【検証方法】アンケート
- 【検証の指標】



- iii 【検証の視点】生徒の自己肯定感の高まり
- 【検証方法】アンケート
- 【検証の指標】



【検証方法】行動観察

【検証の指標】生徒の振り返りの記述に人の考えを聞いて自分の考えと比較したり深めたりした内容の発言が見られる。

何かを決めたり、行動する時、何を大切に決めたらよいでしょうか。

1 自分の考えを書きましょう。

決めた事でもり終えた後には、自分はプラスになることがどうか。
後悔しないかどうか。 3班 他人に迷惑かどうか、自分の想い...
6班 後日と考えると...
2班 自分自身の気持ち 4班 後悔しないように 1班 自分の意思で行動でプラス

2 班で話し合ってみましょう。
*なぜそう考えたか「理由」も伝えて話し合いを深めましょう。
*聞く時のポイントを「話し合いの手順」で確認しましょう。

3 他の人の意見をきいて感じたことや考えたこと等、今日の学習を振り返って文章にしてみよう。

自分でも意見を出したけど、今までたくさんの物事を決めてきた中でそれらを大切にしようかどうかと振り返ることができた。
他の班から、「自分の気持ちも大切にしよう」という意見が出た。この意見を聞いて、私は今まで人の意見に合わせることに慣れてきたので、これからは、自分の意見にも耳を傾けていきたいです。

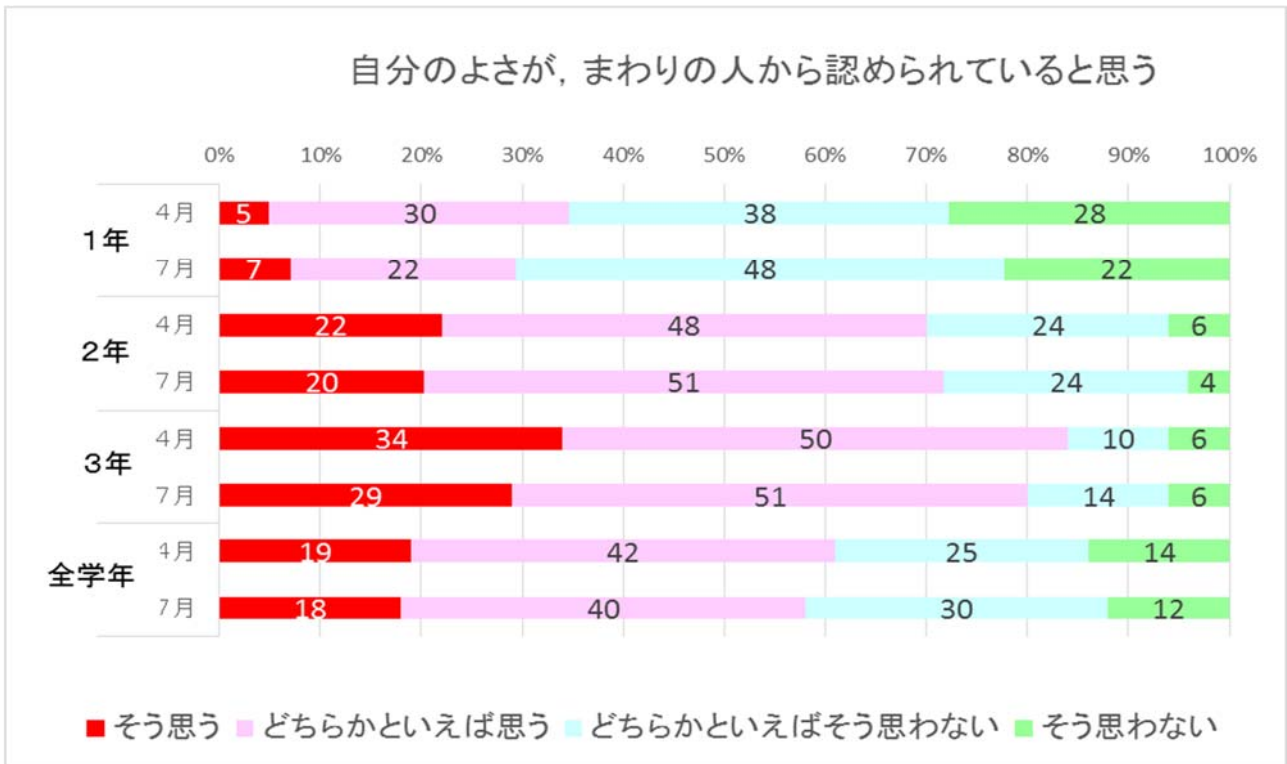
自分の気持ち、他人に迷惑かどうか、自分の想い...
他人に迷惑かどうか、自分の想い...
自分には...
前にも書いたけど...

小グループ活動や全体共有場面で出された友達の意見をワークシートにメモする生徒も多く見られる。

iv 【検証の視点】生徒の周囲から認められているという自己効力感の高まり

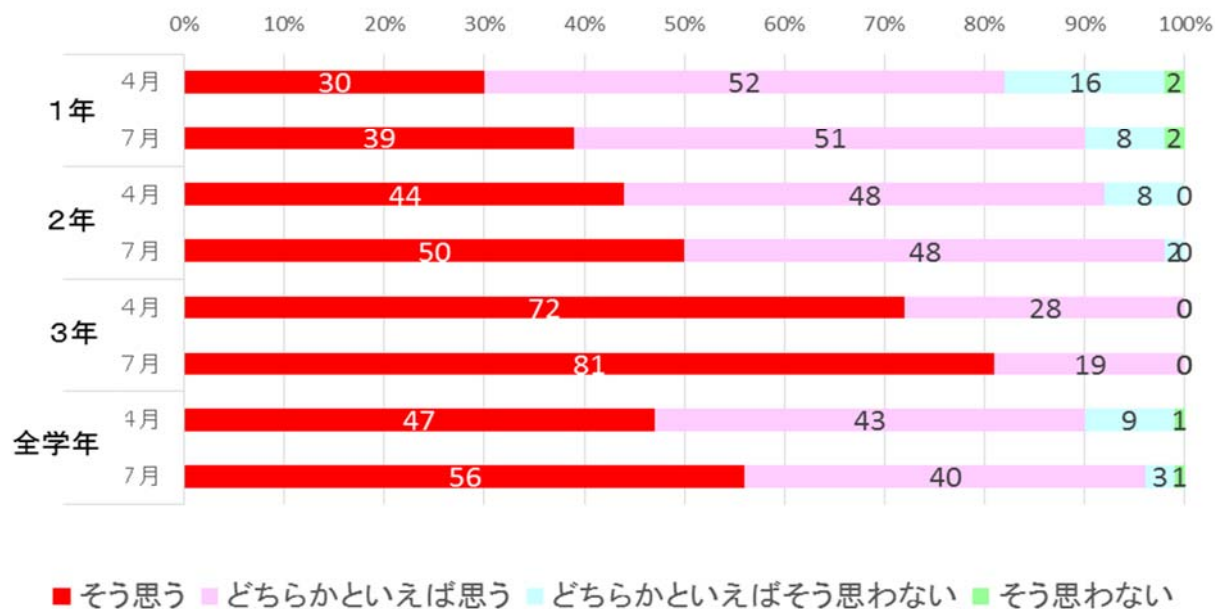
【検証方法】アンケート

【検証の指標】

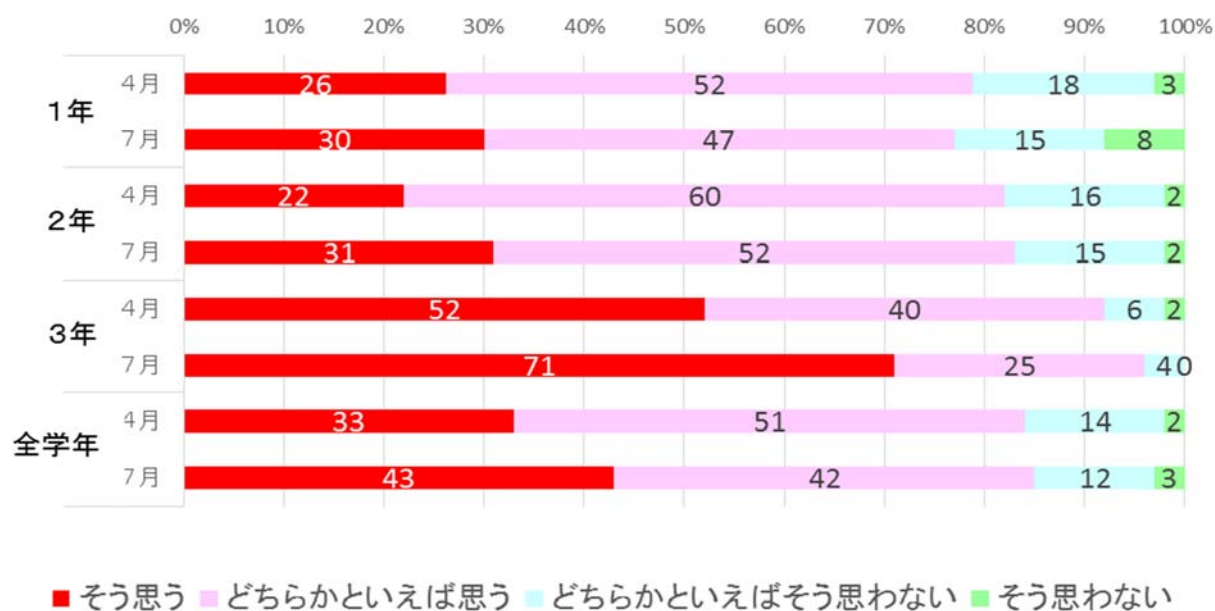


- v 【検証の視点】 生徒の集団や社会の一員としての自覚と責任の高まり
- 【検証方法】 アンケート
- 【検証の指標】

みんなで協力し合って、よりよい学級や学校を作ろうとしている

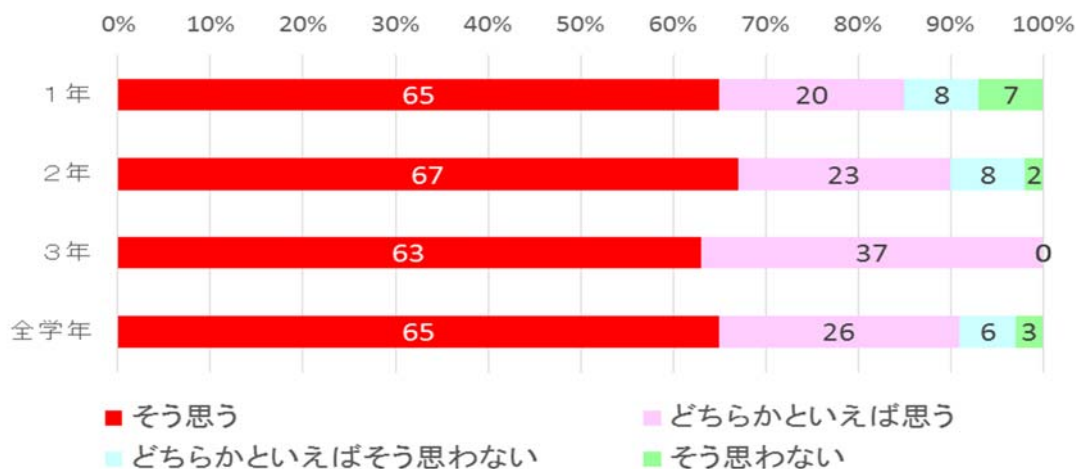


いじめを見たり聞いたりしたとき、いじめをやめさせることができる

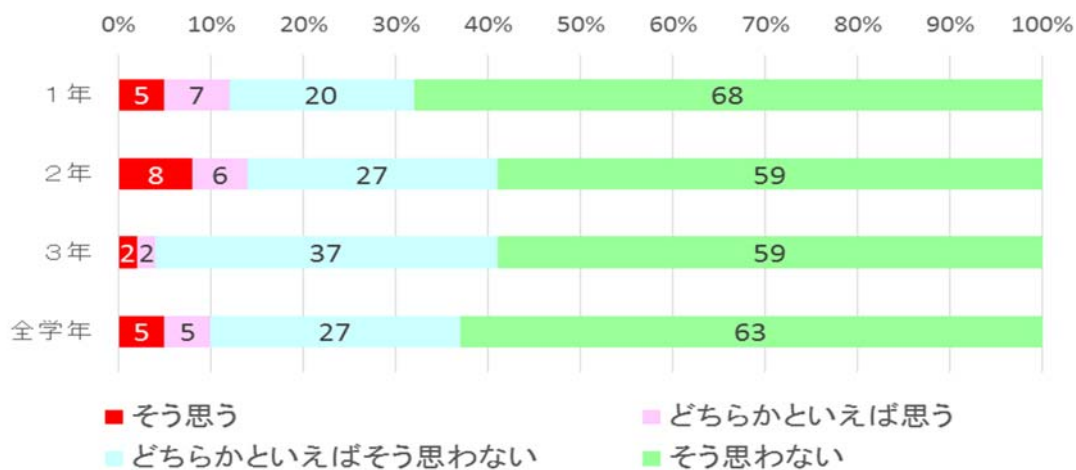


※補足アンケート

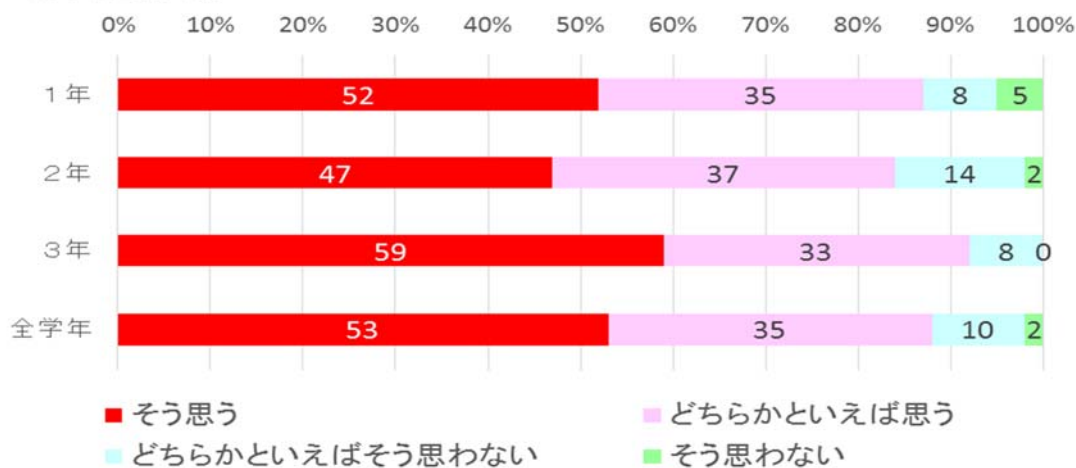
「道徳の時間」に、毎回先生が変わるのは新鮮で楽しいと思う。



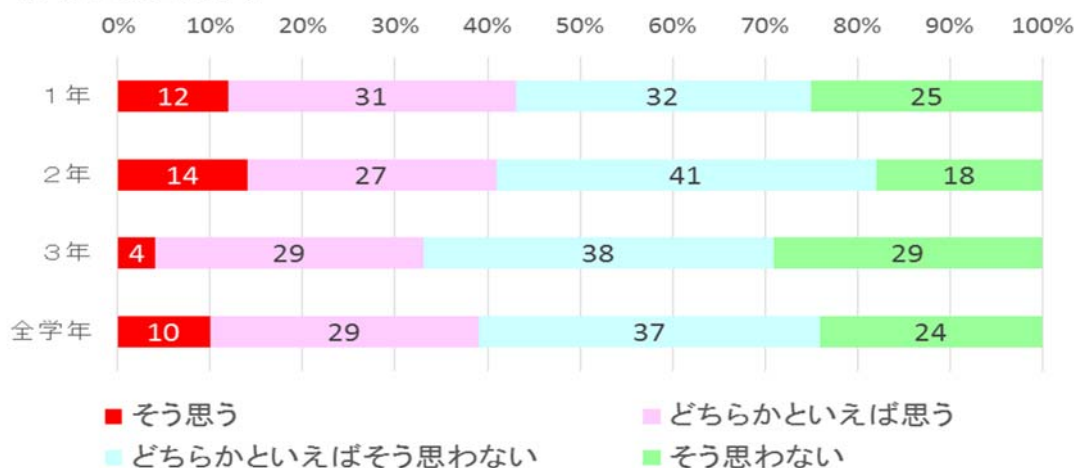
「道徳の時間」に、毎回先生が変わるのは不安だと思う。



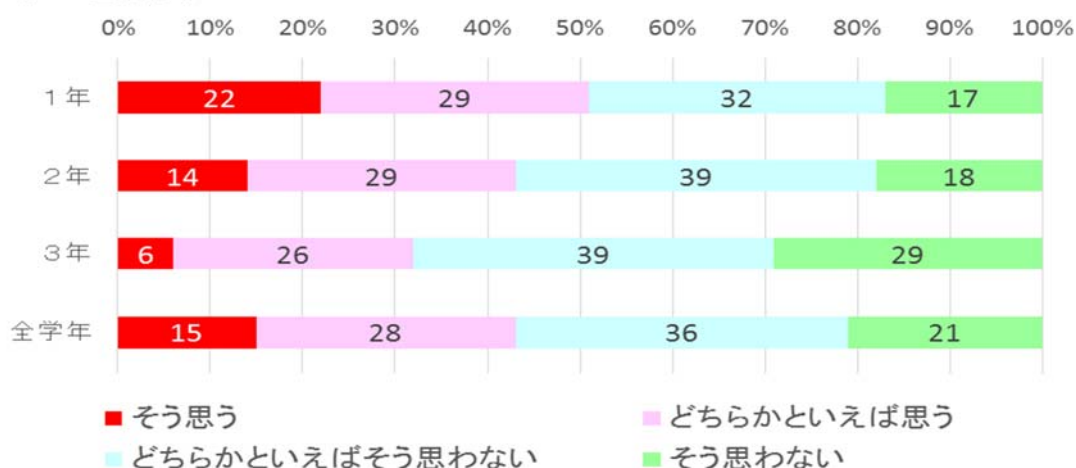
「道徳の時間」に、毎回先生が変わるのは色々な考え方を知ることができると思う。



「道徳の時間」は、毎回学級担任の先生の授業の方が落ち着いて考えられると思う。



「道徳の時間」は、毎回学級担任の先生の授業の方が意見を言いやすいと思う。



○毎回先生が変わる「道徳の授業」の時間の進め方について、どう思いますか。

- [1年生]・いろいろな意見が聞くことができている。
- ・いろいろな考え方が学べる。
- ・先生のことがよくわかる。先生の良さがわかる。
- ・誰の授業か楽しみ。
- ・飽きない。楽しい。
- [2年生]・先生によって考え方が違うところが良い。
- ・話に偏りがなくて良い。
- ・考えるヒントをくれる先生の時が嬉しい。
- ・面白い時とそうでない時の差が激しい。
- ・同性の先生が親しみやすい。
- [3年生]・先生の個性を感じられる。
- ・先生の教科以外のことが分かるので嬉しい。
- ・先生の体験談がたくさんあるから良い。
- ・先生とコミュニケーションがとれる。
- ・話したことのない先生とも話せるから良い。
- ・雰囲気も毎回違うのが楽しい。
- ・進め方が変わりすぎると難しい。
- ・もっと幅広いテーマを学習してみたい。

○「道徳の時間」で、自分の成長を感じた場面や出来事について自由に記述してください。

- [1年生]・善悪の判断がつくようになった。
 - ・自分の考えを素直に言えるようになった。
 - ・自分の考えをしっかりと伝えるようになった。
 - ・班の人と話ができるようになった。
 - ・周りの人と関わりが持てるようになった。
- [2年生]・積極的に発表できるようになった。
 - ・人の立場に立って考えるようになった。
 - ・人と思いを共有できるようになった。
 - ・普段考えないことを考えるようになった。
 - ・授業の始めと終わりで考えが変わることが増えた。
- [3年生]・学習したことが生かされていると時々思う。
 - ・今までの自分を振り返って直そうと思えることがいくつかあった。
 - ・自分の思いを人と話せるようになった。
 - ・いろいろな目線で物事を考えるようになった。
 - ・人の意見を踏まえて自分の意見を発表できた。

vi 【検証の視点】 小学校との連携

【検証方法】 授業公開

【検証の指標】 学区内の小学校教員に道徳の授業研を公開・参加してもらう。

日 時	授業について		参加状況
6月30日(木)	学年 授業者 主題名・内容項目 資料名	3学年 湯尻 めぐみ・池田 恵子 勤労・C13 「真の味ひとつ」 (出典：「明日を生きる 広島県版」 東京書籍)	志和中：5名 志和西小：2名 志和東小：2名 志和堀小：1名 計 10名

【検証方法】 系統表の作成

【検証の指標】 共通の重点項目についての小中の系統表を作成する。

思いやり	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中学校
志和西小	(6月)はしの上のおおかみ (11月)ぼくのはなさいたけど (2月)よかったね、さつちゃん	(5月)くまんのたからもの (11月)学きゆうえんのさつまいも (3月)かっぱ わくわく	(6月)ドミノのように (9月)ぼくら、手つだいます！ (1月)六べえじいとちよ	(4月)やさしいなみだ (11月)なにかおついでできることはありますか？ (1月)親切な方へ	(5月)「オトちゃんルール」 は「あたりまえ」のルール (1月)くずれ落ちたダンボール箱	(9月)車いすでの経験から (3月)最後のおくり物	(7月)怪いやさしさ (9月)橋の上のおおかみ
志和堀小	(6月)はしの上のおおかみ (12月)よかったね、さつちゃん (1月)ぼくのはなさいたけど	(10月)われたぎゆうにゆうびん (2月)学きゆうえんのさつまいも (1月)ぼくのはなさいたけど	(4月)フィンガーボール (11月)不思議なぼくの気持ち (1月)親切な方へ		(9月)車いすでの経験から (3月)最後のおくり物		
志和東小	(6月)はしの上のおおかみ (12月)よかったね、さつちゃん (1月)ぼくのはなさいたけど	(5月)くまんのたからもの (3月)かっぱ わくわく	(6月)ドミノのように (9月)心と心のあく手	(4月)やさしいなみだ (11月)何かお手伝いできることはありますか？ (1月)親切な方へ	(12月)くずれ落ちたダンボール箱 (2月)最後のおくり物	(9月)車いすでの経験から (3月)心に通じた「どうぞ」のひとこと	
生命尊重	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中学校
志和西小	(6月)どきどき どっきんぐ (2月)いのちがあつてよかった	(6月)たんじょう日 (12月)ゆきひょうのライナ (2月)ぼく	(6月)ヌチヌクスー (9月)健ちゃんをたすける (2月)いっただいなのち	(7月)わたしの見つけた小さな幸せ (12月)ヒキガエルとロバ (3月)バルバオの木	(6月)命がないと始まらん (10月)コースチャぼうやを救え (2月)この水のために	(4月)命の重さはみな同じ (11月)お母さんへの手紙 (1月)東京大空襲の中で	(9月)ハゲワシと少女 (3月)地球に生きるグレートジャーニーの子どもたち
志和堀小	(6月)どきどき どっきんぐ (10月)ハムスターのあかちゃん (1月)いのちがあつてよかった	(4月)たんじょう日 (6月)ぼく (11月)ゆきひょうのライナ	(7月)わたしの見つけた小さな幸せ (11月)バルバオの木 (3月)流れ江/電光の中へ		(4月)よみがえれ、海よ (5月)その思いを受けついで (11月)東京大空襲の中で		
志和東小	(6月)どきどき どっきんぐ (10月)ハムスターのあかちゃん (2月)いのちがあつてよかった	(12月)たんじょう日 (2月)ぼく (3月)空色の自転車	(6月)ヒキガエルとロバ (9月)健ちゃんをたすける (2月)いっただいなのち	(7月)わたしの見つけた小さな幸せ (12月)バルバオの木 (3月)流れ江/電光の中へ	(6月)命がないと始まらん (11月)コースチャぼうやを救え (2月)この水のために	(4月)妹の手紙 (12月)その思いを受けついで (1月)東京大空襲の中で	

vii 【検証の視点】 家庭や地域との連携

【検証方法】 授業公開

【検証の指標】 家庭や地域に道徳の授業を年1回以上公開する。

- ・ 11月5日（土） 道徳参観日の実施 等

【検証方法】 授業実施

【検証の指標】 地域教材を年2回以上使用する。

1	内容項目	法とは何か（C10）	実施済
	教材名	「ワールドカップ」（出典：「心の元気Ⅱ」 広島県教育委員会）	
	授業者	（T1）時永 啓史 （T2）池田 恵子	
2	内容項目	勤労（C13）	実施済
	教材名	「真の味ひとつ」（出典：「明日を生きる 広島県版」 東京書籍）	
	授業者	（T1）湯尻 めぐみ （T2）池田 恵子	
3	内容項目	郷土を見つめる（C16）	実施中
	教材名	「時報塔」（東広島市立志和堀小学校作成資料）	
	授業者	（T1）木村 勇 （T2）池田 恵子	

【検証方法】 参加人数調査

【検証の指標】 志和おやじ会主催の地域行事に参加している。

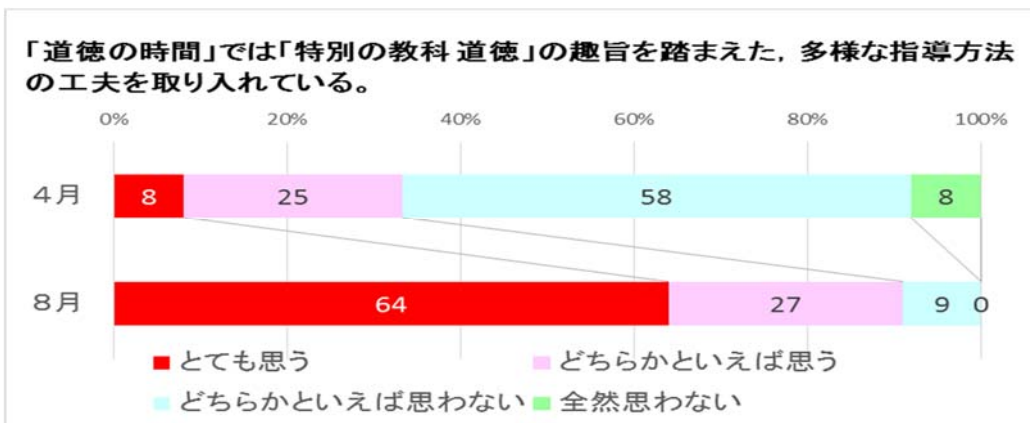
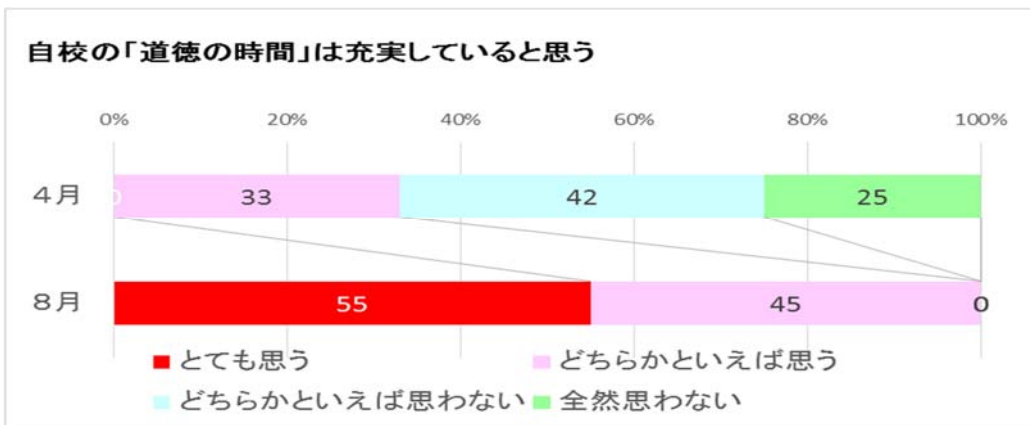
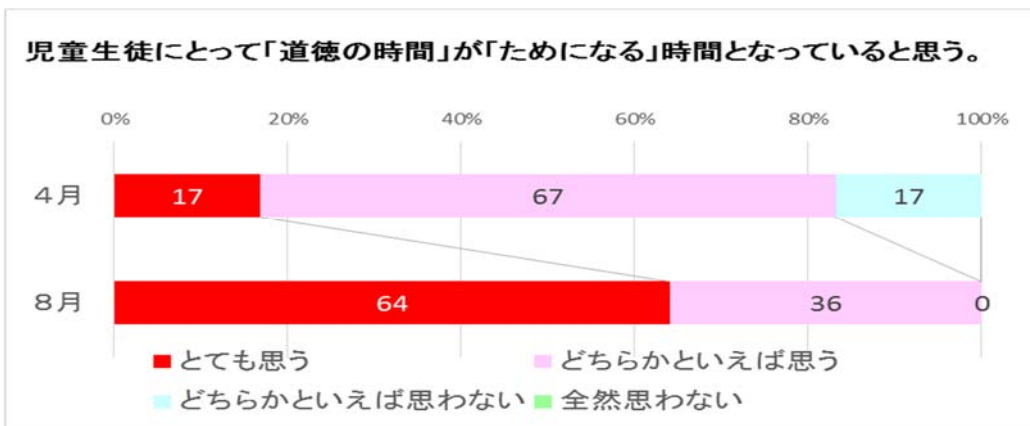
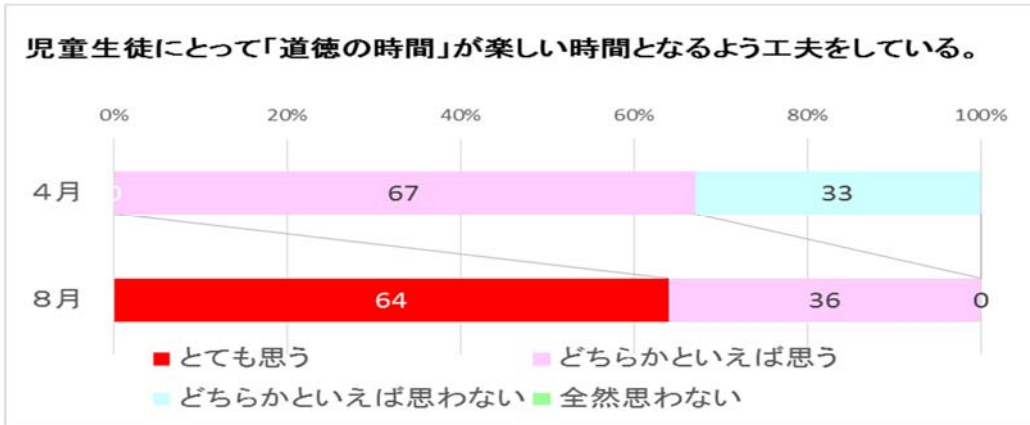
2学年	「トイレ掃除に学ぶ会」（5月実施）	51名中48名参加	参加率 94.1%
3学年	「オーバーナイトハイク」（8月実施）	51名中46名参加	参加率 90.2%

【検証方法】 生徒記述

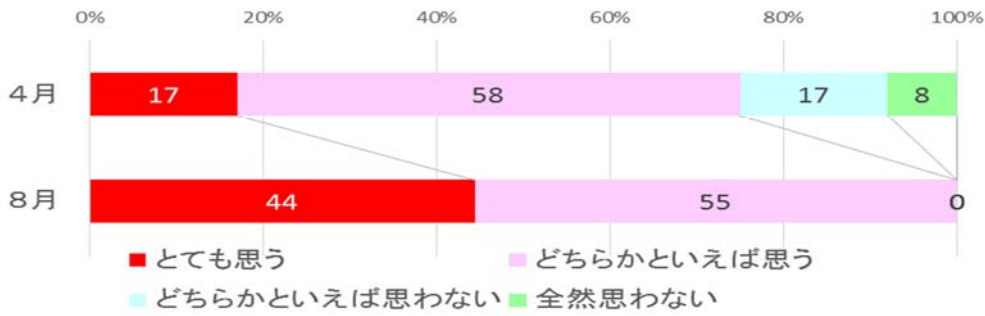
【検証の指標】 地域の行事などに参加した生徒の作文から地域への思いや地域の一員としての自覚等についての記述がある。

2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族も家のトイレをきれいにしてくれていると気付いた。感謝しなくてはと感じた。 ・ 私はなかなかきれいにならないトイレを見て「どうやったらきれいになるんだろう」と固まってしまった時に、あるトイレ掃除に学ぶ会の方が助けて下さいました。「人間は100%できるわけじゃないけど、その100%に近いものに仕上げることが大切だよ。そして、自分のことをしっかりするのもそうだけど、誰かのために何かをしてあげることがもっと大切なんだよ。」と教えていただきました。私はトイレ掃除をする前に思っていた「なぜしないといけないのか。」ということが分かりました。 ・ 今までに体験したことのない、素手でトイレを磨くという良い体験ができました。そして保護者の方、おやじ会の方、トイレ掃除に学ぶ会の方たちがいて、この体験ができたんだと思います。今日、経験したことをこれからの生活にいかしていきたいです。これからもトイレに行くたびに、きれいに使っていきたいと思ったし、全校生徒にも綺麗に使ってもらいたいと思います。もう、このような体験はできませんが、私の妹が中2になったときに、一緒に参加できたら嬉しいです。よい体験をさせてくださり、ありがとうございました。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大人の方が車で先導してくださったり、一緒に歩いて下さったりして有難かったです。私は途中でみんなから遅れましたが、その時も、一緒に歩いて下さいました。 ・ 地域の方や保護者の方々、おやじ会の方々、先生方などのたくさんの方の支えがあって、つらいところも楽しんで歩ききることができました。これからもつらいことや頑張らないといけないことはたくさんあると思うので、色んな人から支えられていることを忘れずに生活していきたいです。 ・ たくさんの方が横断歩道や道ばたに立って応援して下さいましたのもうれしかったし、たくさんサポートしてくださったおやじ会の方に感謝したいです。 ・ 保護者の方やおやじ会の方々に支えられて、このオーバーナイトハイクが行えているんだと実感しました。夜の歩道の確保や休憩中の差し入れなど、すべて生徒を気遣って下さっていることなんだと知りました。本当にこのオーバーナイトハイクができて良かったです。

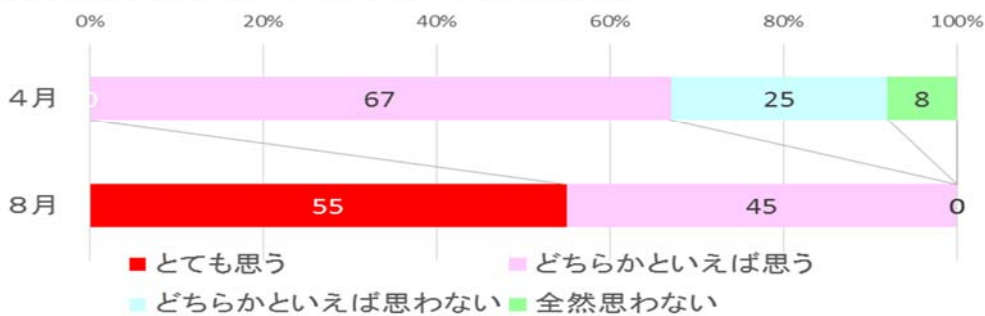
(2) 教職員の意識調査より



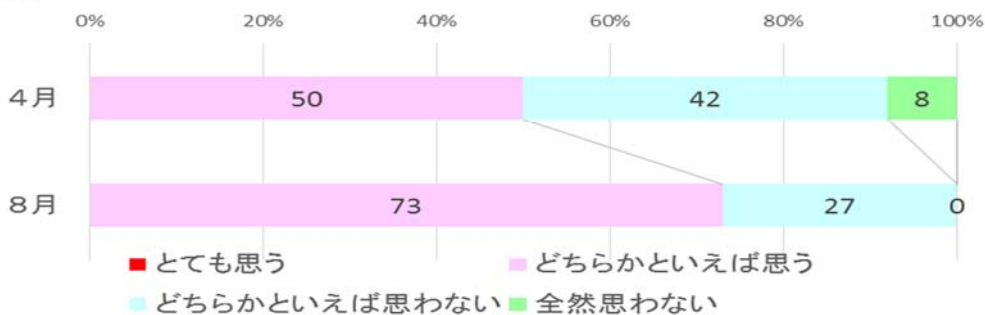
「道徳の時間」では、児童生徒が自分のことを振り返りながら考えるような指導の工夫をしている。



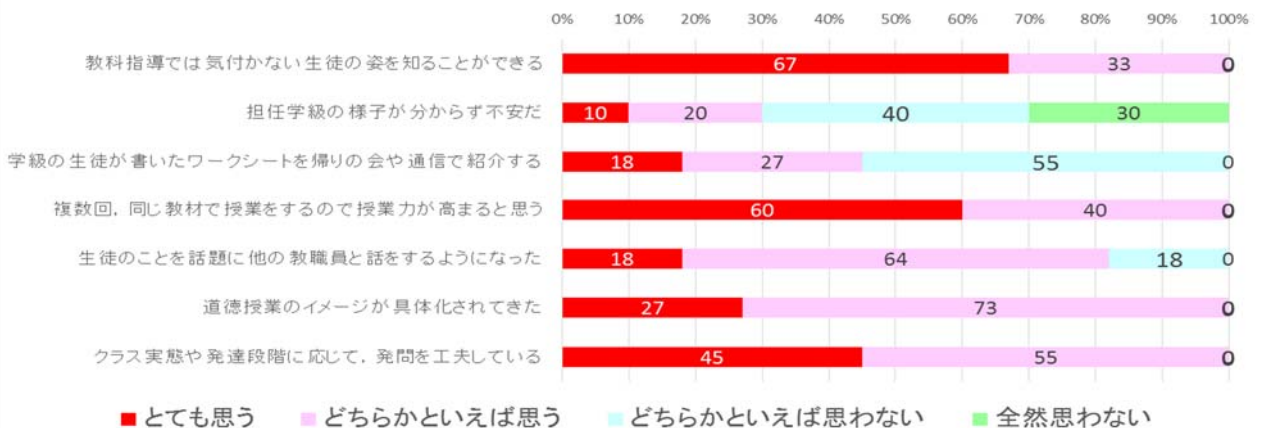
「道徳の時間」では、児童生徒が友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりするような指導の工夫をしている。



児童生徒が「道徳の時間」で勉強したことを自分の生活にいかしていると思う。



ローテーション道徳をすることで・・・



○ローテーション道徳の授業のメリットについて考えを書いて下さい。(自由記述)

- ・生徒がいろいろな教員から学べ、道徳の授業を楽しみにするようになる。
- ・回数を重ねるほど、余裕を持てる。
- ・教材研究ができる。
- ・細かく生徒の実態把握ができる。
- ・授業改善を図ることができる。
- ・担任だけの取組ではなく、学校全体の取組となっている。
- ・多角的に生徒への評価ができる。

●ローテーション道徳の授業のデメリットについて考えを書いて下さい。(自由記述)

- ・時間割を組むのが大変だと思う。
- ・(不安ではないが)他の先生が自分の学級でどのように指導して下さっているのかが見えないことが残念。
- ・同じ内容項目を扱った場合など、「この先生はこのように言ったけど、あの先生はあのようについた…」とズレが生じないだろうか。
- ・クラスによっては扱えない資料も出てくるのではないか。

(3) 考察

i 「道徳の授業」の授業力向上

- ・生徒アンケートでは、「『道徳の時間』の勉強は好きだ」という項目においては、2学年が4月当初よりも肯定的評価が少し減少傾向にあるが、全体的には向上してきている(4月:71% 7月:76%)。また、「『道徳の時間』の勉強はためになると思う」については、全体的には肯定的評価は変わらないものの、「そう思う」度合いは向上している(4月:39% 7月:47%)。また、教職員アンケートにおいても、ローテーション道徳の実施により、各項目において肯定的評価が向上しており、「道徳の授業」の授業力は向上してきていると考えられる。

ii 「道徳の授業」における小グループ活動の充実

- ・『道徳の時間』では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている」という生徒アンケートでは、全体的に肯定的評価が向上している(4月:77% 7月:90%)。小グループでの活動の仕方やワークシート、全体共有場面の工夫など、「考え、議論する」場面の充実に向けての取組が有効であったと考えられる。また、小グループ活動、全体共有を通して、自分の考えと比較しながら友達の意見を聞こうとする姿勢が、ワークシートのメモからも多く伺える。

iii 生徒の自己肯定感の高まり

- ・取組を始めて4ヶ月ということもあり、生徒アンケートの「自分にはよいところがある」の項目における肯定的評価はわずか1%の上昇にとどまっている。しかし、自己肯定感は短期間で劇的に変化するものではなく、小グループ活動等での友達の意見を大切に聞き合う姿勢の積み重ねや、様々な行事や体験活動を通して伸長していくものと捉えている。今後も小グループ活動等の充実をさらに図る必要がある。

iv 生徒の周囲から認められているという自己効力感の高まり

- ・生徒アンケートでは、全体的に後退している(4月:61% 7月:58%)。これは、自分のあるべき姿を考えることで、自己評価が厳しくなったことが原因であると捉えている。
- ・先述の自己肯定感についてはわずかであるが向上している。リフレーミング等の取組などから、自分の短所だと感じていた部分を新たな「自分のよさ」と捉え直している生徒もいる。そのため、新たな「自分のよさ」が周りに伝わっていないという点も、このような結果に至ったのではないかと考える。

- v 生徒の集団や社会の一員としての自覚と責任の高まり
- ・全学年において生徒アンケートの結果は上昇している（「みんなで協力し合って、よりよい学校や学級を作ろうとしている（全学年）」4月:90% 7月:96%・「いじめを見たり聞いたりしたとき、いじめをやめさせることができる（全学年）」4月:84% 7月:85%）。また、学年が上がるごとに、その自覚も高まっている。クラスマッチやその他の行事、部活動においても道徳を意識しながら取り組んでいることによって、肯定的評価の向上につながっていると考えられる。

7 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ・ローテーション道徳の授業を実施したことで、教職員の「道徳の授業」のイメージが具体化され、指導の工夫改善につながっている。
- ・道徳の授業を担当する教員が毎回変わることに對して、授業の満足度として多くの生徒が肯定的評価をしている。
- ・生徒の自尊感情に関する項目については、小グループ活動等の取組の効果がわずかであるが表れつつある。
- ・教員どうしのコミュニケーションの場が増え、一人の生徒に対する多面的、多角的な見方や評価ができるようになった。
- ・小中連携により、発達段階に応じた指導法の工夫等についての協議ができた。今後も、9ヶ年を見通したさらなる道徳教育の充実を図る必要がある。
- ・校長通信や、「私たちの道徳」の閲覧等の取組を通して、本校がめざそうとしている研究内容を保護者や地域の方にも周知することができた。保護者や地域の方のアンケートには、本校の取組に対するあたたかな評価の言葉が多く見られた。保護者や地域と連携することにより、学校が「道徳」を要とする教育環境が構築されつつある。

(2) 今後の課題

- ・ローテーション道徳の授業に対する生徒の評価は肯定的であるが、1学年の生徒は担任教師による方が意見を言いやすいという傾向がある。年間35時間のうちに、どの内容項目で、どの程度のローテーション道徳の授業の実施が有効であるかを検証する必要がある。また、教科化では教科書を使用するため、全学年共通の教材は使えないことから、ローテーションでの実施項目や回数についても、精選した計画を作る必要がある。実施時期については、他の教育活動との関連を図る場合等、タイムリーな設定となるような調整が必要である。
- ・指導内容と指導方法の工夫について共有する必要から、資料と中心発問は事前に全教職員に配布しておく必要がある。
- ・教科化に伴う生徒への評価に関わって、学級担任による生徒の道徳性に係る成長の把握が更に重要になってくる。ローテーション授業を行うことで、担任が、より客観的に自分のクラスの生徒の様子を観察できるというメリットを評価に生かす工夫が必要である。

お わ り に

本日、東広島市立志和中学校公開研究会にご参加いただきました皆様には、ご多用中にもかかわらず、誠にありがとうございました。職員・生徒一同、心より感謝いたしております。

さて、本校では、文部科学省委託「道徳教育改善・充実」総合対策事業の指定を受け、研究主題を「自他を認め 自尊感情を高める道徳教育の創造 ～生徒の心に響く指導方法の工夫をとおして～」として、職員一丸となって研究、実践を重ねてきました。4月から約半年間で、多くの研修会、研究授業・研究協議を重ねるうちに、少しずつ、教材の分析方法や道徳授業の展開の方法がつかめてきました。また、「ローテーション授業」により教師の授業力が高まってきております。さらに生徒は、自他が共感し合う学習活動を実践することにより、自己肯定感、自己有用感を少しずつ高めることができつつあります。

これまで本校の研究推進にご尽力いただきました植田和也先生には感謝申し上げますとともに、きめ細かな指導をいただきました広島県教育委員会・広島県西部教育事務所・東広島市教育委員会の先生方に深く感謝申し上げます。今後とも道徳教育の更なる充実をめざし研究推進して参りますので、引き続きご指導を賜りますよう、よろしく願いいたします。

平成28年11月10日

東広島市立志和中学校
教頭 倉田 明彦

ご指導いただいた先生方

日本道德教育学会名誉会長〈元文部科学省 教科調査官〉	横山利弘先生
國學院大學人間開発学部 教授	田沼茂紀先生
香川大学大学院教育学研究科 准教授	植田和也先生
広島県教育委員会 豊かな心育成課 課長補佐(兼)係長	山田幸治先生
広島県教育委員会 豊かな心育成課 指導主事	金子京子先生
広島県教育委員会 豊かな心育成課 指導主事	大橋美代子先生
西部教育事務所 教育指導課 指導主事	神崎隆之先生
愛媛県西条市立河北中学校 校長	坂井親治先生
香川県高松市立香東中学校 校長	佐々木啓祐先生
香川県高松市立香東中学校 研究主任	廣田恵子先生
香川県高松市立香東中学校 道德主任	大北佳苗先生
東広島市教育委員会 学校教育部 教育調整監(現 東広島市立西条小学校校長)	中嶋崇弘先生
東広島市教育委員会 学校教育部指導課 参事	村上正志先生
東広島市教育委員会 学校教育部指導課 指導主事	田川至孝先生
東広島市教育委員会 学校教育部指導課 指導主事	今朝丸由香先生
東広島市教育委員会 学校経営アドバイザー 主任	松原隆二先生

研 究 同 人

森岡 勝司	倉田 明彦	笠原 有子	湯場 茂樹	清水 秀宣
小野 祥子	池田 恵子	黒河 俊信	毛利奈美子	時永 啓史
佐藤 啓哉	湯尻めぐみ	木村 勇	藤原みのり	塚崎 和彦
植木 舞	吉高 佳子	寺廻 憲志	谷田小夜子	槇田 晃輝
本田 淳子	アドリュージュパル	ブリアジエンガス	川原 民恵	